

《事業の概要》

1. 理事長指針・学校長方針

■ 理事長指針

1. 学園創立100周年を見据え「J-Vision22」を強力に推し進め、「選ばれる学校」「魅力ある学校」づくりに邁進する。
2. 危機意識を背景に「学園財政の健全化、安定化」と「学生、生徒の確保」を重点課題とし、制度改革と教職員の組織力強化に取り組む。
3. 学園のシンボリックなOIT梅田タワーをすべての設置学校の成長エンジンと位置付け、新たな教育・研究およびイノベーションの拠点とする。

■ 大阪工業大学 学長方針

終りなき18歳人口減少期を目の前にして、将来に亘って「選ばれる大学」としての明確な優位性を伴う社会的な認知を得ることは、本学にとって喫緊の課題である。その解決は、「建学の精神に基づく実践的教育の質的向上」という根本に求められなければならない。2017年度の重要項目として列挙したものは、この最重要課題を中心に相互に強固に結び付くものである。

「建学の精神に基づく実践的教育の質的向上」には、適正な基準に基づく成績評価の厳正化・三つのポリシーを基軸にした教学マネジメント体制の徹底など、過年度からの継続事業が含まれる。また昨年度採択されたAP事業を起爆剤として、「卒業時の質保証」を基軸とし、受験生・保護者・高等学校関係者などへの訴求(偏差値向上)、就職率の維持と進路の質向上までのエンrollmentマネジメント全体を改革する全学的な体制が始動した。

これまでの様々な取組みを踏まえながら、各項目単体の実現ではなく、学部等の独自性・自律性に立脚しながらも、全学の一体的な改革推進体制を実質的に軌道に乗せ、その成果を広く社会に訴え、大阪工業大学に対する社会的認知の刷新を図ることを以って学長方針とする。

『建学の精神に基づく実践的教育の質的向上』

- I. 4学部・4研究科・3キャンパス体制での円滑な運営の始動
- II. 大宮キャンパス再開発計画の遂行
- III. 大学院の活性化を含む研究ブランディングの強化
- IV. 堅実な学生確保と社会の動向を見据えた入学選考・高大接続の実現
- V. 「就職に強い大阪工大」の地位の維持と質的向上
- VI. 課外活動等の学生支援の充実
- VII. 産業界・行政・地域などとの関係強化
- VIII. グローバル展開の充実
- IX. 教学と経営両面のIRを含む継続的・効果的な自己点検評価の推進
- X. 以上を牽引する人材基盤を固めるためのFD・SDの推進

■ 摂南大学 学長方針

1. 基本方針

グローバル化や少子高齢化などの急激な国内外の社会情勢の変化の中で、大学は社会において求められる人材の高度化・多様化に対応した「教育の質的転換」や、18歳人口の減少期における学生募集力強化のための「選ばれる大学・魅力ある大学づくり」を強力に推進していかなければなりません。

こうした時代の中で、歩みを止めることなく、様々なイノベーションを追求するためには、構成員全員が現状に甘んじることなく高く明確な目標と計画を掲げ、一体となってそれを遂行していくことが必要です。また、本学の教育・研究・運営自体を学生・社会に対して開くとともに、その評価を真摯に受け止めることで、本学において欠けているもの、伸ばすべきものを見つけ出し、2018年問題を超えて大学を発展させる足掛かりとしていきたいと考えます。

2017年度は、第Ⅱ期中期目標・計画の最終年度となる節目の年であり、またSETSUDAI VISION 2025(摂南大学創立50周年)に向けて、目標の達成および大学改革を着実に推し進めていきます。

上記の方針に基づき、2017年度は、次の5点に主眼を置き具体的施策に取り組みます。

- (1) 学生・社会に対する教育成果保証のための「教育の質的転換の全学化」
- (2) 社会の要請に応えられる「研究体制の整備と充実」
- (3) 教職員・学生の「連携力強化」と地域的・国際的な「社会貢献活動の発展」
- (4) キャンパス拡大に併せた大学の発展・拡充の準備と「新しいブランド構築」
- (5) 「外部評価の積極的活用」による大学マネジメントの推進

2. 具体的施策

1 学生募集

- (1) 安定的入学志願者の確保

- (2) 入試難易度の維持・向上
- (3) 第1志望者比率の向上
- (4) 女子入学者比率の向上
- (5) 地域(地方)戦略の策定と実施
- (6) 大学広報の強化

2 教育

- (1) 全学共通教育の実施
- (2) 学修成果の可視化
- (3) 課題発見・解決力を涵養する教育(摂南大学全学部PBLプロジェクトおよびアクティブ・ラーニング)の推進
- (4) 資格取得支援の充実
- (5) 少人数教育を行う授業科目の厳選と充実
- (6) 就業力向上のためのキャリア教育の充実
- (7) 学習支援センターの強化
- (8) 環境教育の実践
- (9) 最新のICTを活用した教育の推進
- (10) 情報リテラシー教育の充実
- (11) 除籍・退学者を減らすための修学指導の充実

3 研究

- (1) 研究支援体制の充実(研究支援委員会の設置)
- (2) 産官学連携による新しい研究体制の構築
- (3) 地域的課題解決を目的とした研究の推進
- (4) 共同研究・受託研究の支援体制の強化
- (5) 外部資金獲得および特許出願件数増加のためのシステム構築強化
- (6) 学術機関リポジトリ運用の推進

4 学生支援

- (1) 課外活動の活性化
- (2) 強化クラブへの支援強化
- (3) 学生サポート体制の強化
- (4) 奨学金制度の充実

5 進路・就職

- (1) 就職不活動学生対策と就職支援プログラムの充実(就職率の向上)
- (2) 学部・学科と就職部の一体となった支援の実現(就職満足度の向上)
- (3) 就職実績安定化のための保護者・卒業生との連携強化
- (4) 就職実績安定化のための就職コア企業との関係構築
- (5) 学生個々の希望・適性に応じた進路・就職支援強化(全学を挙げた支援体制の充実)

6 人事

- (1) 大学設置基準に必要な教員数と適切な教員数の確保
- (2) 教員活動評価制度の実施による教育研究活動の質の向上
- (3) 研究業績の公開による質の保証と研究成果の活用

7 財務

- (1) 学内競争的予算運用の実施(研究費の予算配分等)
- (2) 学納金に対する教研経費・設備費の執行比率の向上(大学単独)
- (3) 文科省補助金等外部資金の積極的な獲得

8 学校間連携

- (1) 内部推薦入試制度の見直し・整備
- (2) 学園内高校(中学を含む)との連携強化・充実
- (3) 3大学就職担当部門の情報共有と就職関係行事の共同実施
- (4) 学園内高校における就業意識の醸成
- (5) 課外活動団体交流の活性化

9 社会貢献

- (1) 連携協定締結の行政・地域機関との連携事業の内容充実
- (2) 新規の連携協定締結行政・地域機関の開拓
- (3) ボランティア相談・支援体制の構築
- (4) 地方自治体、地元産業界との連携の実質化
- (5) 生涯学習(社会人・高齢者等)の推進

10 グローバル化

- (1) 学生の海外派遣および外国人留学生・教員・研究員等の受け入れ促進
- (2) グローバル化に対応したコミュニケーション力の強化
- (3) 海外大学・研究機関との交流促進
- (4) 地域社会のグローバル化への貢献

11 教育組織力の強化

- (1) 全学共通教育(基礎教育、教養教育、キャリア教育等)実施のための体制の整備
- (2) SD・FDの徹底
- (3) 事務合理化の推進

12 高大連携

- (1) 高大連携協定校の拡充
- (2) 高大連携協定校との関係構築強化

13 大学マネジメント・ブランディング

- (1) 学部・学科(研究科・専攻)の設置・再編等
- (2) 高大接続改革(入学者選抜改革)の推進
- (3) 3ポリシーの見直し
- (4) 大学組織・運営体制の強化
- (5) 環境マネジメントシステム(ISO14001)の継続実施
- (6) 大学IRの促進
- (7) 大学機関別認証評価の第3期対応
- (8) 外部評価による大学マネジメントの推進
- (9) Smart and Humanの具現化と学内外への広報

14 キャンパス環境の整備

- (1) 教育施設の充実
- (2) キャンパスアメニティの充実
- (3) キャンパス整備構想の策定

■ 広島国際大学 学長方針

1. 基本方針

人口の減少・少子高齢化が進み、社会保障費が増大していくなか、「医療」に求められる内容も病気やケガの治療にとどまらず、「健康の維持」「生活の支援」にも広がってきており、地域を基盤とした「医療・福祉」がますます重要になってきている。また、高大接続改革実行プランが公表され、教育の質的転換が迫られている。

本学は、健康・医療・福祉分野の総合大学として、このような時代の変化に対応すべく将来構想を策定した。

具体的には、病院・福祉施設・行政・企業・地域におけるチームやコミュニティーのリーダーとして、あらゆる人々の健康寿命の延伸に貢献できる人材を輩出する教育体系を整備していく。さらに、このような人材を育成するために、学生だけでなく世代、性別、国籍等を超え、また、障がいの有無にかかわらず、多様な人々の交流・学びの場となることができるキャンパス(ユニバーサルキャンパス)の実現をめざす。これらにより、皆が「ともにしあわせになる学び舎」となり、オンリーワン・ナンバーワンの大学として持続的に発展していく。

本学は開学20周年を迎える2018年度の前後年度を含めた3か年で周年事業を実施するが、その事業の一環として、将来構想の実現に向けた教育体系や、それに対応したキャンパス、組織体制の改革を推進する。

2017年度は、これまでどおり国家試験合格率や就職率の維持・向上を図りつつ、高大接続も見据えて、周年事業の1年目として、教職協働で一丸となって改革を推し進め、本学が持続的な発展を遂げるための基盤を構築する。

2. 主要課題

- (1) 新たな教育体系・教育体制の構築(広国教育スタンダード)
- (2) 2020年度にユニバーサルキャンパスを実現させるための環境整備
- (3) 教育改革およびワーク・ライフ・バランスを考慮した組織体制の見直し
- (4) 入学定員の充足および業務の効率化等による財政基盤の強化

3. 具体的な施策

(1) 教育改革(新たな教育体系・教育体制の構築)

これからの時代に求められる健康・医療・福祉人材の育成に向けた特色ある教育・研究プログラムを策定することにより、オンリーワンの教育・研究を展開するための基盤を構築する。

- ① 学生志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育の推進
- ② アクティブラーニングの強化
- ③ 情報通信技術(ICT)を活用した多様な教育の提供や学修環境の充実
- ④ 学部間連携による、教育・研究プログラムの開発・実施
- ⑤ ステークホルダーと協働した教育・研究プログラムの開発・実施
- ⑥ 教育・研究活動の推進による大学ブランドの向上

(2) キャンパス整備

学部・学科を超えた学生間の交流機会が増えるようキャンパスを整備することで、学生の満足度の向上につながると共に、地域住民との交流を促進できる環境の実現に向けた計画を策定し、2017年度中に実施可能なところから実施する。

- ① 東広島キャンパス整備計画(ハード面)の策定
- ② 東広島・呉キャンパス運用計画(ソフト面)の策定

(3) 組織体制の見直し

実践的で質の高い教育を実現するための組織体制を検討する。また、学園設置学校と連携した事業の充実を図る。

- ① 教育改革と連動した学部・大学院の再編・改組計画の策定

- ②組織再編等による大学運営の効率化および教職協働での大学改革の推進
- ③OIT梅田タワーを活用した学園内連携の強化

(4) 財政基盤の安定化

入学者確保と除籍退学率の低減、外部資金の獲得等により、健全な大学運営のための財政基盤を強化する。

- ①入学者の学力水準の維持と入学定員充足および除籍退学率の低減
- ②研究倫理教育の実践による公正な研究活動の推進と外部資金の獲得強化

4. 2017年度TOPICS

- (1) 最終年度を迎える第Ⅱ期中期目標・計画の自己点検・評価の実施および第Ⅲ期中期目標・計画の策定
- (2) 公認心理師国家資格の導入に向けたカリキュラム等の準備
- (3) 2018年度の新たな教育体系の導入(2017年度医療栄養学部完成年度)に向けた準備
- (4) 2020年度の2キャンパス体制へのスムーズな移行のために、医療経営学部の移転準備を開始
- (5) 2020年度の新たな教育体系および学部・大学院の再編・改組に向けた準備
- (6) 開学20周年事業(2017年度～2019年度)の実施

■ 常翔学園中学校・高等学校 校長方針

- ・2022年の長期目標達成に向け、進学指導とキャリア教育の強化により、生徒の学力伸長と人間力向上を図り、実社会で活躍できる人材を育成する。
- ・教育効果を高めるため、iPadを活用したICT教育を積極的に推進する。
- ・東館(中高体育館)建替え計画を実践する。
- ・SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定に必要な環境を整える。

[大学進学目標]

- 1. 学園内併設大学への進学率 30.0%(2017年度卒業生、対卒業生数比)
- 2. 大学合格者数(2018年度大学入試、既卒生を含む延人数) 国公立大学 65人、関関同立大学 230人

[学校運営・人材育成]

- 1. 校長方針に基づいた各部署・コース・学年および個人の具体的目標の設定とその実現に向け実践する人材の育成
- 2. iPadを活用した会議資料ペーパーレス化の推進
- 3. 卒業生、保護者との連携・交流の推進
- 4. 中高一貫コースのカリキュラム・進度・クラス編成・進学強化対策他、運営システムの見直し
- 5. 学園内併設大学および常翔啓光学園中高との連携・交流の推進
- 6. 学園内併設大学への進学率向上
- 7. 日々の教育活動の速やかなHP掲載と保護者へのメール配信
- 8. 常翔ホールの積極的利用

[授業力]

- 1. 授業アンケートポイント向上に向けた授業の工夫・改善、大学入試問題分析、高等学校基礎学力テスト、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の研究、研究授業・教員研修等を通じた授業力強化
- 2. iPadを活用した教科指導実践に向けた研修
- 3. 教科ごとの授業力向上会議とその実践および結果公表

[教育内容]

- 1. ICT教育推進のためのインフラ整備強化と研修および実践
- 2. 内部進学者学力向上のための学習指導強化
- 3. 中高大連携教育の推進と充実
- 4. 一般入試受験率の向上
- 5. 勉強と部活動との両立を支援する環境づくり
- 6. 生徒・保護者面談におけるコミュニケーションスキルの向上
- 7. 放課後の自主学習、自宅学習時間を増やすための指導強化
- 8. キャリア教育の重要性を全教職員が共有し、授業・特別活動・課外活動等での普段からのキャリア教育に関連付けた指導と中高キャリアプログラムの一層の充実
- 9. 進学実績向上に向けた学年・コースの全校あげでの組織的な取り組み
- 10. 文理進学コースの学力および進学実績の向上
- 11. 成績上位者における、模試、センター試験の平均偏差値・平均点の向上ならびに受験者全体の成績向上
- 12. センター試験を意識させるための低学年(中学校も含む)からのテストへの(センター試験問題の)恒常的出題
- 13. 海外修学旅行、語学研修、英会話講座、授業を通じ、国際社会や異文化に関心を持たせ、積極的に交流しようとする生徒の育成

[生徒指導]

- 1. ルールやマナーにこだわりを持たせる指導と教職員自らの率先垂範した行動
- 2. 「本校の考える担任力」に基づいた教員個々の担任力(生徒指導力・進路指導力・保護者対応力)向上
- 3. 授業規律の徹底と教員間の情報共有
- 4. 社会性が身につく部活動指導、部活動生が学習面においてもリードすることのできる支援体制の構築、社会が求める真のリーダー育成
- 5. 自校史教育実践の必要性共有

6. 環境教育、ボランティア活動を意識した生徒への啓発と教職員自らの積極的行動
7. いじめ防止、体罰禁止を意識した指導、厳しくも褒めて伸ばす教育の実践
8. 中学も含めた生徒会活動の活性化

[生徒募集]

1. 2018年度入学生数目標
高 校:600人(14クラス、一貫コース2クラスを含む募集人数555人)
中学校:105人(3クラス、募集人数100人)
2. 募集広報に有効な情報(成績伸長、活躍、教科の取組み・成果等)の共有
3. 中学校入試における説明会等参加人数増加のための施策強化
4. 全教職員の入試広報に対する意識の向上と協力

■ 常翔啓光学園中学校・高等学校 校長方針

本校は2017年度開校60周年を迎えるにあたり、学園の支援を受けて音楽棟とクライミングウォールが完成する。私たち教職員は、OIT梅田タワーと合わせてこの新しい校舎、施設を本校が躍進していく象徴として、積極的に学校改革に取り組み、在校生、保護者、卒業生と共に本校を誇りに思える学校にするために『選ばれる学校』『魅力ある学校』づくりに邁進していく。

本校の教育理念『ユニバーサル社会を創造する人間の自覚と能力を育み、社会に貢献できる人間を育成する』を実現するために、教職員はお互いに協力して生徒一人ひとりに探求心と自学自習の力を涵養させて学力を向上させる。またクラブ活動や学校行事等を通して人間力の育成を図り、卒業後も社会で活躍できる幅広い能力を身に付けさせる。本校に求められていることは、生徒たちの進路保証と心身の健やかな成長であることを認識する。

これらのことを実践するために私たち教職員は日々の業務に真摯に取り組み、特に授業力を上げるために研鑽を積む。また、教育改革に積極的に取り組むために常に最新の教育情勢を研究して、カリキュラムの改編を実行する。さらに教職員の意識改革を図り、進学実績の向上、生徒募集の強化を推し進め、財政の安定を含めた学校改革を実行していく。

2018年度大学入試 合格実績の目標

1. 学園内設置大学への進学率 30.0%(2017年度卒業生、対卒業生数比)
2. 大学合格者数 (2017年度卒業生、既卒生を含む延べ人数) 国公立大学 35名 関関同立120名

2018年度本校入試 生徒募集目標

1. 中学入試 特進(選抜)=35名 特進=30名 合計=65名
2. 高校入試 特進Ⅰ類=40名 特進Ⅱ類=120名 進学=230名
3か年合計=390名
内部進学=50名 総合計=440名

[学校運営・人材育成]

1. 学校改革に向けた教職員の積極的な取り組み
2. 各分掌の具体的目標達成に向けた積極的な取り組み
3. 自己評価と自己点検制度の充実と、全教職員相互の信頼関係の構築
4. 人材強化委員会の意向に沿った、評価者、被評価者の相互理解の上での教員評価制度の構築と実施
5. 人権に関する教職員研修会(いじめ、体罰、ハラスメントなど)の継続的实施と危機管理意識の醸成
6. ホームページやメールなどの充実による卒業生や保護者との連携のさらなる強化

[進学指導・教育内容]

1. 学園設置各校の特色を最大限生かした中高大連携の推進
2. 生徒の目標に合わせた効果的な進路指導と、進学実績向上のための学力伸長プログラムの構築
3. 進学実績向上のための組織的な取り組みとして外部研修会などへの積極的な参加とその情報共有
4. 学力伸長のための授業内容の研究と、研究授業や公開授業の実施による教科指導力の向上
5. 授業アンケートを分析して、生徒の目線に立った教育力、指導力、担任力の向上
6. 成績上位層のための強化講習や、成績不振者のための補完授業の展開
7. 中高6か年教育の利点を生かした系統的な進路学習と語学教育の推進
8. 生徒がクラブ活動など課外活動と勉強の両立をするための支援体制の強化
9. サイエンス教育を活用した自然科学系分野への進路の拡大
10. 自学自習の力を伸ばすための支援体制と学習環境の整備

[人間力育成・生徒指導]

1. 挨拶と掃除の励行
2. 生徒への積極的な「声かけ」と、日々の生徒の状況把握の徹底
3. ルールやマナーの向上と、教職員による率先垂範
4. 海外研修や留学制度の充実によるグローバル化の推進
5. 学園内設置大学の留学生の協力による国際理解教育の推進
6. 部活動によるリーダーシップ育成
7. 学校行事の充実と、ボランティア活動などを含めた生徒会活動の活性化
8. 本校の教育理念を実践できる人間力を持った生徒の育成

[生徒募集]

1. 安定した生徒数確保に向けた教職員の意識向上
2. 中学校の定員確保のための諸施策の実行、特に効果的な塾まわりや各種説明会への参加

3. 説明会などでのセールストークや、相談相手の意向をくみ取る状況判断の技術習得
4. ホームページの多面にわたる充実

2. 事業計画 実績報告

(1) 事業計画

2017年3月21日 理事会承認

■ 法人本部

No.1▶学園事務システム更新計画〔ICT連携機構〕

■ 大阪工業大学

No.1▶AP事業推進を基軸においた、大学の一体的な改革〔学長室、AP推進室〕

No.2▶ロボティクス&デザイン工学部・同研究科(梅田キャンパス)の認知度向上

〔ロボティクス&デザイン工学部事務室、入試部〕

No.3▶大宮キャンパス再開発〔学長室、工学部事務室〕

No.4▶イノベーション教育事業の推進〔ロボティクス&デザイン工学部事務室 RDC担当〕

No.5▶産学連携プラットフォームの構築〔ロボティクス&デザイン工学部事務室 RDC担当〕

■ 摂南大学

No.1▶キャンパス整備計画事業(継続)〔学長室〕

No.2▶大学・大学院の改組事業(継続)〔学長室企画課〕

■ 広島国際大学

No.1▶広島国際大学2017年度大学改革事業〔学長室企画課〕

■ 常翔学園中学校・高等学校

No.1▶探究授業の拡大とSSH(SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL)指定校(申請中)としての取組〔高校教頭〕

No.2▶タブレット端末を活用したICT教育の積極的推進〔高校教頭、事務室〕

■ 常翔啓光学園中学校・高等学校

No.1▶情報端末を活用したICT教育推進事業〔教頭、教務部、事務室〕

No.2▶60周年記念フェスティバル〔教頭、事務室〕

(2) 目的、計画、事業実績

2018年5月24日 理事会報告

法人本部:1件

No.1 学園事務システム更新計画〔ICT連携機構〕

事業計画の目的、計画など	実績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 現行の学園事務システム(財務会計・人事給与等本部系システム、各学校学生・生徒支援システム等)は、2012～2014年度に本稼働を開始し、2016年度から順次、耐用年数満了となる。後継システムは老朽化対策の他、震災時等の業務継続性、業務の標準化・共通化に向けたシステム統合、ITコストの抑制、パッケージソフトの有効活用、クラウド化等を考慮し、選定する。 《実施計画》 ・情報部門を改組し、3大学と本部の情報部門が連携し計画を進める。 ・2017年度に本部系および工大学生支援システムを更新する。 ・2018年度に摂大および広国大学生支援システムを更新する、並行して各学校システムを統合する。 【具体的指標・効果(成果検証)】 ・クラウド化による業務継続性・セキュリティ対策向上とハードウェア導入コスト・ランニングコストの削減	1. 自己評価による達成度 ・前回のシステム更新時よりもハードウェアに係るコストを削減することができた。また、システムの一部をクラウド環境に移行することで、業務継続性とセキュリティ対策の向上が期待できるため、費用対効果は大きいと考える。 ・本部系および工大学生支援システムの更新、移行、運用切替えを実施し、安定稼働している。 ・図書館システムのバージョンアップおよびシステム移行を行った。 ・システム統合についてはICT連携機構内に検討チームを構成し、本格的に検討を開始している。 2. 実施した施策 ・学園の情報部門を改組し、本部および各大学の構成員全員を本部ICT連携機構課員とし、構成員が相互に連携協力できる体制を整えた。 ・学園事務システム更新について、更新方針、サーバー構成、データ移行方法をICT連携機構全体で協議した。 ・広島国際大学における事務系仮想基盤システム(認証サーバー等)を更新した。

・システム統合による本部・各学校業務の標準化・効率化	・本部系および工大学生支援システムの更新先環境を選定した。 ・図書館システムのバージョンアップ各種設定内容を決定した。 ・本部系および工大学生支援システムの新サーバー機器等を設置した。
3. その他 【今後の計画】 ・2018年度に実施する摂大および広国大学生支援システム更新へ向けて準備を進める。	

大阪工業大学:5件

No.1 AP事業推進を基軸においた、大学の一体的な改革 [学長室、AP推進室]

事業計画の目的、計画など	実 績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 2016年度採択されたAP事業(2016～2019年度までの支援事業)の推進を中軸に据え、入口から出口までの一貫した、全学に及ぶ改革を遂行し、将来に亘って「選ばれる大学」としての明確な優位性を伴う社会的な認知を得ることを目指す。 《実施計画》 2016年度内に実施した内容を踏まえ、更に以下の項目に注力する。 ① AP事業の柱の一つである「ディプロマサプリメント・システム」の開発とその活用(可視化の効果)を通した学修支援体制の検討。 ② AP事業の重要側面である「キャリア」に関連する各種施策(「キャリア形成支援手帳」の製作、「キャリア形成講座」の開講等)の遂行。 ③ 上記以外のAP事業に関連する卒業生アンケート、在学生学修行動調査、教学IRシステムの構築などの施策を遂行。AP事業の申請においては、学修時間・卒業時の質保証に参画する教員比率・大学教育で成長を実感する学生の割合・ディプロマサプリメントによる個別指導の実施率などをはじめとする、広範な施策の実施が求められている。 ④ 上のすべての施策遂行の基盤として、AP事業を契機に設立された各種委員会(教学IR統括委員会、実効力評価委員会、教育推進委員会(全学・学部別))、さらにAP推進室等を包含する全学的な改革推進体制の活動促進。入口から出口までのエンrollment・マネジメント全体を教学IR統括委員会が定めるKPI(重要業績評価指標)と各学部等の独自性・自律性に立脚したPDCAサイクルによって効果的に機能させる。 ⑤ AP事業の選考では、大学の従来の教育改革の実績が問われた面があり、これまでの成果と今後の展望を併せて、本学に対する社会的認識を刷新する契機が与えられているとの認識の下、広報活動においての訴求に最大限活用する。 【具体的指標・効果(成果検証)】 上記①～③は、AP事業応募時の記載事項であり、2017年度中の達成目標は、申請内容を以って当てる。 ① 2016年度の開発内容に対して、必要な修正等を行い、実用に向けての調整を図る。 ② 目的に合致した内容で、キャリア形成支援手帳の製	1. 自己評価による達成度 ① AP事業の申請に記載した各種項目はほぼ全てをクリア(授業外学修時間の未達)し、また多岐に亘る計画を滞りなく遂行しており、高い評価ができる内容と考える。 ② AP事業の推進を基軸としながら、「教育・研究」「入口から出口まで」を有機的に結び付け、第Ⅲ期中期目標・計画とも関連させて構築するという点で、大学の一体的な改革に相応しい広がり確保できている。IR機能の整備にも着手しており、第1段階である集計機能に関する仕様が確定し、2018年度6月にパイロット版の「IR年報」を学内の審議機関(教育IR統括委員会)に上程予定である。 ③ 広報については、十分な効果を上げているとは認識しておらず、私立大学研究ブランディング事業の選定事業(地域産業支援プラットフォーム)とあわせてシナジー効果を狙い、インナーブランディングから戦略の再構築を図っている。 ④ 2018年3月16日付の文部科学省の中間評価において「S評価」を受けている。 2. 実施した施策 ① 「ディプロマサプリメント・システム」を改修し、前期の成績発表後、試行導入した。そのフィードバックを受け、体系的な学修支援体制の再構築に向けた各学科での検討を促進するとともに、2018年度からの本格稼働に向けて準備を完了した。 ② 「キャリア形成支援手帳」は予定どおり製作完了。1年次・3年次の学生に対するPROGテストの解説会など、キャリア形成講座を実施した。 ③ 卒業生アンケートは実施済み。取り纏め内容を学内で報告している。 ④ 2017年3月に実施の在学生学修行動調査(学生アンケート)は、集計結果を学内限定でWEB公開している。同調査の設問を再検討し、工大サミットとの関係性を持つ設問などを加えて、2018年3月に実施済[在学生・卒業生(新入生を除く)]。 ⑤ 教育IRシステムは、2018年度の開発に向けて機能の検討を行っている。同システムでの出力は、「IR年報」の仕様を確定し、パイロット版のシステムを構築している。同年報は、「入口」から「出口」までのエンrollment・マネジメントを包括し、更に研究までを網羅する計画となっている。 ⑥ 第Ⅲ期中期目標・計画の始動時期も踏まえ、入口から出口までのエンrollment・マネジメントについて、全構成員と意識共有を行うため全5回のキャンパスミーティングを開催(学長による総括説明、「入口」、「出口」、「教育」、「研究」をテーマに計5回)。 ⑦ 2016年度に選定されたAP事業に続き、今年度の私立大学研究ブランディング事業と2年連続の文部科学省助成事業での選定を受け、「教育力×研究力」の両面で公の評価を受けている大学とし

作、キャリア形成支援講座を実施する。 ③ 卒業生アンケートその他の遂行と、2017年度に達成すべき学生の学修時間・卒業時の質保証に参画する教員比率・大学教育で成長を実感する学生の割合・ディプロマサプリメントによる個別指導の実施率などを始め、多岐に亘る達成指標が設定されている。 ④ については、教学に関する広範な指標の下、各種改革の実現に向けて各部門および部門横断的な組織が網状に協働する体制が円滑に運用していることが目標となる。KPI(重要業績評価指標)は、AP事業の推進の中核的組織である「教学IR統括委員会」が決定。検証方法等についても、関連する機関において検討の上、決定する。 ⑤ については、現時点で具体的な数値目標は定めがたいが、HPへのアクセスを細かく分析し、社会的な認知(文部科学省・他大学に留まらず、広いターゲット)が進んでいることを随時確認の上、具体的な向上策を展開する。	て、本学に対するイメージ刷新を促すキャンペーンを進めた。インナーブランディングを徹底すべく、すべてのキャンパスにおいてポスターを大々的に掲出。第2弾として、受験生・企業等へのPRを図るため、ポスターのイメージをリーフレットに展開し、受験生・在学生・企業採用担当者等への発信準備を整え、一部はすでに配布を進めている。 ⑧ 教育IR統括委員会、実効力評価委員会(後者は、外部委員を含む)を開催し、今年度の成果等について検証を行っている。
3. その他	
【今後の計画】	
次年度以降の計画として、	
① ディプロマサプリメント・システムは工学部においてのみ全面適用となっており、他学部においては段階的に導入。	
② 教育IRシステムは、集計機能のみが部分的に完成(約5割強)。今後、集計機能を拡充するとともに、分析機能を組込み、IR年報をエビデンスとするPDCAサイクルの確立が必須。	

No.2 ロボティクス&デザイン工学部・同研究科(梅田キャンパス)の認知度向上

〔ロボティクス&デザイン工学部事務室、入試部〕

事業計画の目的、計画など	実績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 2017年度は梅田キャンパス誕生、そしてロボティクス&デザイン工学部および同研究科の開校初年度であり本学にとって大きな転機である。同年度に、本学が世間から注目を集めることは必然であり、学生募集など広報活動においても非常に重要な時期である。 2017年4月の開校後も継続的に、同学部・研究科およびキャンパスの魅力を強く発信し続け、“新しい大阪工業大学”をシンボリックに世の中に伝え、本学の「進化」を強く印象づけ、支持を得ることを目指す。 《実施計画》 2016年度内に実施した広報活動等を踏まえ、以下の施策に注力する。 ロボティクス&デザイン工学部を主対象とするが、梅田キャンパスおよび大学院での学びについても、併せて広報を展開していく。 ① ロボティクス&デザイン工学部に関する広報活動の実施 ロボティクス&デザイン工学部に関連する受験生・保護者・高校等を対象とした広報活動およびその基礎となる“新しい大阪工業大学”のイメージ浸透を図る。 学部・学科等のコンセプトを踏まえ、以下の媒体により訴求対象に応じた広報を実施する。 ・受験雑誌・新聞広告・Web広告掲載 ・模試実施業者を活用した志願誘導DM発送 ・業者主催説明会参加 ・新学部・新キャンパス広報用「梅田ジャックビジュアル」 ・フリーパブリシティ活用(プレスリリース等) ② ロボティクス&デザイン工学部オープニングシンポジウムの実施 「ロボティクス&デザイン」という新しい分野への社会的認知を促進し、産官民学連携推進のための契機をつくり出すため、梅田キャンパス「常翔ホール」において、新学部各学科の教育研究内容に関連する	1. 自己評価による達成度 2017年度に実施すべき事業計画については、概ね当初の計画どおりに実施することができた。 2018年度公募制推薦の志願者数では、新学部(ロボティクス&デザイン工学部)全体において前年比104%(ロボット工学科(以降「R科」):110%、システムデザイン工学科(以降「S科」):156%、空間デザイン学科(以降「W科」):87%)となった。 また、他の推薦系では専門高校特別推薦において志願者数前年比155%(R科:124%、S科:170%、W科:180%)、指定校推薦では志願者数前年比132%(R科:139%、S科:180%、W科:108%)と好調な結果となった。 一方、一般入試前期・後期では、志願者数前年比106%(R科:97%、S科:148%、W科:93%)と、S科以外は過年度の高倍率が敬遠された結果となったが、学部全体では前年を上回った。 [オープニングシンポジウムの実施] オープニングシンポジウムは事前予約制として申込みサイトを開設し、申し込みが616人で、当日の参加者は約500人で常翔ホールはほぼ満席であった。参加者のアンケート(n=245)を集計した本シンポジウムの満足度は1.63(とても満足「1」~とても不満「5」)と非常に高いものであった。産官や地域の講演者、パネリストから新学部や梅田キャンパスへの期待を表明いただくことで、来場者へ強い印象を与えることができた。 [Web改修・再構築] アクセス解析により、オープニングシンポジウムや安藤忠雄氏講演会、オープンキャンパスなど規模にかかわらずイベントの前後にWebサイトへのアクセスが集中することが明らかになっている。今回の改修により、見た目の変化に加え、新着情報が常に目にできる状態となり、新学部に関心の高い訪問者に期待をもって繰り返しアクセスいただける態勢が整った。 2. 実施した施策 ① 広報活動の実施 受験生の手元に直接届けるDM5件、教員および保護者層をターゲットに新聞広告4件、Webバナー1件、受験雑誌2件に参画し、多角的にロボティクス&デザイン工学部(以降「新学部」)を訴求した。

著名人を招いたシンポジウムを開催。梅田キャンパスの施設を活用することで、キャンパスの認知度向上にも繋げる。

③ 新学部関係Web改修・再構築

2016年度に立ち上げた新学部サイトの改修、再構築を行い、よりステークホルダーに伝わりやすく、かつ社会に向け発信力のあるWebサイトにし、強く印象づける。

【具体的指標・効果（成果検証）】

学部・研究科の全体の広報を行うが、AP事業関連で設立された教学IR統括委員会において定めるKPIに基づき、2017年度入試の志願状況を見定めた上で、具体的な指標を設定する。

とりわけ、手元に届くDMおよびステークホルダーを狙った新聞広告にウェイトをおいた。

② オープニングシンポジウムの実施

新学部の開設を記念して、大阪の行政や産業界を代表するリーダーの方を招き、2017年5月13日に梅田キャンパス常翔ホールで「イノベーション創出のための人材育成」というテーマでオープニングシンポジウムを実施し、イノベーション創出のための産官学連携や人材育成について議論を深めた。二部で構成し、一部では「基調講演」として、大阪市長・吉村洋文氏とパナソニック株式会社代表取締役専務・宮部義幸氏、「講演」として本学システムデザイン工学科・松井教授がそれぞれ講師を務めた。講演の中で吉村氏は大阪市のイノベーションにかかる取り組みと本学に対する期待など、宮部氏は企業におけるイノベーションの最前線と本学の人材育成に向けての期待など、松井教授からは本学の目玉である『デザイン思考』を用いた学修について話を展開した。

二部では、大須賀学部長がコーディネーターとなり、パネリスト3名（株式会社毎日放送・赤城賢彦氏、ヤンマー株式会社・小山博幸氏、宮岸副学長）で「パネルディスカッション」を行った。赤城氏からは茶屋町地域での本学の役割への期待、小山氏からは産業界としての本学への期待が述べられた。

オープニングシンポジウムの他に『地域、一般市民』『学生・教職員』『受験生』を対象に様々なイベントを実施した。

〈地域、一般市民〉

- ・2017年7月28日 安藤忠雄氏講演会
- ・2017年8月24日 子ども科学大学＜サンケイリビング社主催、本学共催＞
- ・2017年12月2日、8日 プレ・サイエンス・カフェ
- ・2018年1月～計5回 サイエンス・カフェ

〈学生・教職員〉

- ・2017年9月15日、16日 デザイン思考ワークショップ
- ・2017年11月9日 Hugh Miller氏による木工実演と講演会

〈受験生〉

- ・2017年8月13日他数日 河合塾等に大学受験模試会場として施設貸与
- ・2017年10月21日、22日 大阪サイエンスデイ＜大阪府教育庁、大阪府立天王寺高等学校共催＞

③ Web改修・再構築

2017年7月28日に新学部公式サイトを改修・再構築した。教員の研究室をより見える化するため、活動内容がより伝わるよう改めた。また同学部の動きがすぐに伝えられるよう新着情報のレイアウトを変更し、コンテンツの更新頻度も高めた。

3. その他

【今後の計画】

- ・2017年度入試では振るわなかったS科が、2018年度入試では各入試において大幅に志願者数を伸ばした結果、確実に認知されてきていることから、これまで行ってきた広告展開（DM・Web・新聞広告など）を継続して実施していくこととしたい。また、大学選びに関する進路指導が高等学校の現場で年々早期化しており、受験生のみならず低年次生（1・2年生）もターゲットに含めて広報活動を実施していく。
- ・梅田キャンパスのにぎわい創出については次年度以降も継続して取り組んでいく必要があり、学部主催として「デザイン学会」と「SI2018学会」を誘致するほか、1階ギャラリーでのイベント（教育LEGOを用いた低年次を対象とした工作イベントやサイエンス・カフェ）を予定している。
- ・新学部のキーとなる授業の紹介やイベント情報等をタイムリーに発信するほか、アクセス解析により訪問数のアップを図る。改修・コンテンツの強化については、同学部Web担当教員と入念に打合せのうえ、教職協働で実施していく。

No.3 大宮キャンパス再開発 [学長室、工学部事務局]

事業計画の目的、計画など	実績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 将来に亘り「選ばれる大学」として明確な優位性を持って社会的な認知の獲得を目指す本学にとって、並行して相応のキャンパス環境の整備を進めるとともに、耐震性等の懸念を晴らすことは喫緊の課題である。 《実施計画》 長期的な計画の下に進められる事業であるが、2017年度には4号館解体に向けて、その機能(工学部都市デザイン工学科・建築学科)を梅田キャンパスに移転する工学部空間デザイン学科・ロボット工学科の跡地に移転させることが中心となる。 ・4号館機能の移転先、大宮学舎2号館、9号館、東学舎1号館、2号館の改修工事(2017年4月～2018年1月) ・4号館機能の移転(引越) ・4号館解体(2018年2月～2019年2月(予定)) 【具体的指標・効果(成果検証)】 既存施設の効果的な利用および計画の遅延なき遂行。	1. 自己評価による達成度 既存施設の改修工事、4号館解体の工期が若干遅延している点は計画の未達ではあるものの、改修工事による既存施設の効果的な利用は計画どおり遂行できたため。 2. 実施した施策 2017年度中に主に次の施策を実施した。 ・4号館機能(工学部都市デザイン工学科・建築学科)の移転先確保のため、大宮学舎2号館、9号館、東学舎1号館、2号館等の改修工事(2017年6月～2018年2月) ・工学部環境工学科等の移転(引越)(2017年8月～9月) ・4号館機能(工学部都市デザイン工学科・建築学科)の移転(引越)(2018年2月～3月) ※当初の実実施計画中、4号館解体(2018年2月～2019年2月(予定))は2018年度実施となった。 3. その他 【今後の計画】 長期的な計画の下に進められる事業であるが、2018年度には、主に4号館(都市デザイン工学科・建築学科屋外実験場含む)解体工事、3号館新築工事*および雨除け屋根等解体撤去工事を行う。 * 3号館は4階建て。1階は都市デザイン工学科と建築学科の実験施設、2～4階は普通教室等。 ・4号館解体工事(2018年4月～2019年3月(予定)) ・3号館新築工事(2018年4月～2019年3月(予定)) ・雨除け屋根等解体撤去工事(2018年度中(予定))

No.4 イノベーション教育事業の推進 [ロボティクス&デザイン工学部事務局、RDC担当]

事業計画の目的、計画など	実績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部の目玉は、デザイン思考である。デザイン思考の目的はイノベーション教育にあり、イノベーション教育は、日本でも東京大学をはじめとした主要大学で導入されつつある。イノベーション教育を通じて、特に海外では質の高い学生が集まりやすい環境にあり、相乗効果として研究も活発になっている。 ロボティクス&デザインセンターによる梅田キャンパスにおけるイノベーション教育の推進こそが、教育の質およびブランドイメージの向上と志願者増につながる。 また、イノベーション教育で先行している大阪大学大学院医学系研究科バイオデザイン学講座との連携協定の締結を目指すことにより、梅田キャンパスにおける常翔学園の教育とのシナジー効果を発揮しつつ、理事長指針にあるOIT梅田タワーを全学園の戦略的拠点化の一翼を担う。 《実施計画》 ① 社会人向けデザイン思考講座の実施(全5回) ② ロボティクス&デザインセンターHPの作成・運用 ③ 2018年度RDC独立法人化によるイノベーション教育の収益事業化に向けた制度整備の検討 【具体的指標・効果(成果検証)】 ・2018年度ロボティクス&デザイン工学部 志願者増1ポイント以上に対する寄与	1. 自己評価による達成度 NEDO特別講座は委託先の大半が東京大学であり、残りも旧帝国大学等で寡占されていた。私学単独で委託されたのは、本学が2校目であった。過去、イノベーション教育に対する実績がなかった本学が採択されたことは、大学のステータスを高めるという視点では、大きな成果であった。採択後は、ロボットビジネススクールを全国6会場で開講し、その講義動画を大学HPに載せるとともに講義テキストを作成し配布したことで、本学のイノベーション教育の普及に貢献した。 大阪商工会議所とのオープンイノベーション拠点創設を開設できるよう着々と準備を整え、2018年4月に記者会見と開設記念シンポジウムを行う予定である。 2. 実施した施策 ① 社会人向けデザイン思考講座の実施(全5回) 日刊工業新聞と共催で、下記タイトルのデザイン思考講座を実施。 関西の流行発信地「大阪 梅田 茶屋町」で実践する！ IoT×ロボット×デザイン思考でつくる新製品・新サービス 2017年12月8日、12月9日、2018年1月12日、1月20日、1月27日の全5回 ② ロボティクス&デザインセンターHPの作成・運用 下記URLの通り作成・運営 http://www.oit.ac.jp/rdc/ ③ 2018年度RDC独立法人化によるイノベーション教育の収益事業

・ イノベーション教育に関する他大学との連携数	化に向けた制度整備を検討中 ④ NEDO特別講座ロボットサービスビジネススクール受託による国家予算によるイノベーション教育の推進 NEDOからの委託事業(NEDO特別講座)として約10,000千円の国の予算を用いて、社会人向けのイノベーション教育(デザイン思考教育)を全国5ヶ所を実施。(徳島、福島、大阪、東京、名古屋) 3. その他 【今後の計画】 RDクラブ活動の強化、大阪商工会議所とのイノベーション拠点創設、および外部収入安定化。
--------------------------------	--

No.5 産学連携プラットフォームの構築 [ロボティクス&デザイン工学部事務室、RDC担当]

事業計画の目的、計画など	実 績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 イノベーション教育を推進するためには座学だけでは不十分であり、企業から持ち込まれる実課題に基づく、PBLが要となる。ロボティクス&デザインセンターが産学連携のプラットフォームを構築することで、より効果的なイノベーション教育につながる。また現時点では梅田キャンパスには産学連携プラットフォーム、オープンイノベーションの拠点としてのインフラ整備・機能整備が不十分である。大阪府や大阪商工会議所等との外部連携を行いながら、産学連携プラットフォームとしての機能を整備する。 《実施計画》 ① 大阪府との連携協定(ロボット×バッテリー)とシンポジウムの実施 ② ロボット事業化プロセス(要素技術、システム、リスクアセスメント、安全認証等)の見える化 ③ 2018年度運営法人立ち上げによるデジタル試作工場の収益事業化に向けた制度整備の検討(大阪商工会議所との連携) 【具体的指標・効果(成果検証)】 企業人・学生入り交じりでのPBL・ワークショップ共同開催等の産学連携企業数 6社以上	1. 自己評価による達成度 RDクラブのように学生参加・インバウンドインターンシップ型の新たな産学連携の形を実現できたことは、教育という観点からも大きかったと考える。参加企業数も11社で、ロボティクス&デザイン工学部教員のマンパワーの最大限度許す限り受け入れ、同学部のブランド普及活動の一助となった。 2. 実施した施策 ① 大阪府との連携協定(ロボット×バッテリー)を締結し、協議会(大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会)とその傘下にドローンWGを発足。 ② RDクラブの立ち上げ 産学連携の基礎となるイノベーション教育・デザイン思考教育に基づく、学生のための産学連携のクラブ「RDクラブ」を立ち上げ。 参加企業:積水ハウス、サントリーシステムテクノロジー、パナソニックデバイスSUNX竜野等11社 参加学生数:約120人 3. その他 【今後の計画】 OIT-P事業(私立大学研究ブランディング事業)に基づく産学連携推進、大阪商工会議所との協定に基づく産学連携推進、およびRDクラブ活動強化と外部収入の安定化。

摂南大学:2件

No.1 キャンパス整備計画事業(継続) [学長室]

事業計画の目的、計画など	実 績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 寝屋川キャンパスは、教育研究、産学官連携、社会貢献等様々な活動を展開する摂南大学の中核キャンパスである。地域に愛され信頼される大学を築くために、このキャンパスを学生・教職員だけでなく、地域の人々にも潤いと安らぎを与える空間として整備する。学部・学科の新設・再編をはじめ、教育プログラムの充実や課外活動の活性化を目的とした整備内容とする。 枚方キャンパスは、屋内体育施設がなく学修環境の充実および課外活動活性化に向けた体育施設の建設や学部・	1. 自己評価による達成度 摂大交流会館を解体し、新たな部室棟での課外活動が始まったが、苦情や施設・設備の不備などは見受けられない。 日本ペイント㈱寝屋川事業所用地の跡地整備計画はワーキンググループのメンバー以外からも多くの意見等があり、有効な活用案が提案できると考える。現在、仮設バス待合所および周囲フェンスを設置しており、整備計画着工までの安全対策を講じている。また、枚方キャンパスの農学部棟(仮称)新築工事も承認を得られ、2020年4月の開設に向けて、建物等の設計を含め具体的な計画を進めており、概ね順調であると判断する。

学科の新設も含めた整備内容とする。 《実施計画》 [寝屋川キャンパス] - 現在の敷地に2018年1月引き渡し予定の日本ペイント(株)寝屋川事業所用地を加えて、学部・学科の新設・再編やグラウンド建設等を含めた寝屋川キャンパス全体の整備計画を検討・策定する。[2017年度] [枚方キャンパス] - 学部・学科の新設や体育施設等を含めた枚方キャンパス全体の整備計画を検討・策定する。[2017年度] 【具体的指標・効果（成果検証）】 [寝屋川キャンパス]整備期間:2017～2021年度 [枚方キャンパス]整備期間:2017～2021年度 <2017年度> 各キャンパス整備計画の検討および計画策定。	2. 実施した施策 [寝屋川キャンパス] 2017年12月 部室棟竣工後の摂大交流会館解体工事竣工 (工期:2017年7月～12月) 2017年4月～ 日本ペイント(株)寝屋川事業所用地の跡地整備計画について、キャンパス計画検討ワーキンググループを設置し、具体的な施設・設備の検討・策定を行っている。 2018年1月 日本ペイント(株)寝屋川事業所用地の跡地への仮設バス待合所設置工事および周囲フェンス設置工事竣工 (工期:2017年12月～2018年1月) [枚方キャンパス] 2017年9月～ 農学部棟(仮称)新築工事について、9月26日の理事会にて承認。複数業者から発注業者を選定し、施設・設備の設計・開発等について、関係部署を含めて定例会議を実施する等、具体的な設置計画を進めている。 3. その他 【今後の計画】 [寝屋川キャンパス] 日本ペイント(株)寝屋川事業所用地の跡地整備計画について、帰宅時の通学において、バス停から道路を挟み学内まで長蛇の列が発生していたため、仮設バス待合所を設置したが、屋根および十分な待合スペースを確保したバス停の整備は2018年度中に行う。 [枚方キャンパス] 2018年度後期に農学部棟(仮称)新築工事の着工を予定。
---	--

No.2 大学・大学院の改組事業(継続) [学長室企画課]

事業計画の目的、計画など	実績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 改組検討事業 2015年に創立40周年を迎えた本学は、さらなる改革として創立50周年を見据えた成長戦略「SETSUDAI VISION 2025」を策定し、そのビジョン実現のために5つの目標を設定した。その1つが「多様な側面から課題解決に取り組む総合大学への進化」である。 社会のニーズや時代にマッチした教育体制とするべく、前年度に引き続き、学部・学科の設置を検討するとともに、既設の学部・学科・コースの改組・再編を検討する。これにより、大学改革を推進するとともに、ブランド力の向上につなげる。 《実施計画》 改組検討事業 ①学部・学科の設置・再編等の検討 ②研究科・専攻の設置・再編等の検討 【具体的指標・効果（成果検証）】 《実施時期》 <2017年度> 学部等新設・再編の検討および計画策定。	1. 自己評価による達成度 農学部の設置については、教員人事を約半数まで編成した。今後、5月末を目途に、教員公募により教員人事編成を進めていく。また、校舎等建築設計は、スケジュールどおり、10月から2月までの基本設計を終えた。今後、2018年6月まで実施設計を行う予定である。教育課程は、今後、教員人事編成とともに、今後、詳細な編成を進めていく。 2. 実施した施策 2016年度摂大改組等ワーキングにより、新学部設置の検討を進め、農学部および文系1学部を設置することとした。2017年度は新学部開設準備委員会を設置し、2020年4月に開設予定の農学部について具体的な内容を協議している。文系学部の設置については、日本ペイント(株)寝屋川事業所用地の整備計画および既存の学部等の改組・再編を見据えながら、今後検討していく。 [2017年度新学部開設準備委員会開催実績] ①4/4 ②4/14 ③5/30 ④8/8 ⑤9/21 ⑥11/1 ⑦12/27 ⑧2/7 3. その他 【今後の計画】 農学部設置にかかる具体的な学内機関の承認手続きを進めていく。機関承認後に、「校舎建設計画」「学部設置認可申請」「寄附行為変更認可申請」等の準備を進めていく。

	また、既存学部改編等については、2018年度から検討する予定である。
--	------------------------------------

広島国際大学:1件

No.1 広島国際大学2017年度大学改革事業〔学長室企画課〕

事業計画の目的、計画など	実 績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 本学は、2016年度に「広島国際大学将来構想」を策定した。この将来構想に基づき、新たな教育体系・教育体制の構築やそれに対応したキャンパス整備、組織体制の見直し等の改革を行っている。2017年度は、将来構想に基づく大学改革を教職協働で推し進め、本学が持続的な発展を遂げるための基盤を構築する。 《実施計画》 [1] 教育改革 これからの時代に求められる健康・医療・福祉人材の育成に向けた特色ある教育・研究プログラムを策定することにより、オンリーワンの教育・研究を展開するための基盤を構築する。 (1) 新たな教育体系の導入に向けた基盤の構築 (2) 学部・学科横断型教育プログラム(地域課題解決型)の構築 (3) 社会人の学び直しに対応した教育プログラムの構築および学びやすい環境の整備 [2] キャンパス整備 学生だけでなく、多様な人々の交流・学びの場となるキャンパス(ユニバーサルキャンパス構想)の実現に向けた整備を実施する。 (1) 東広島キャンパス整備構想の策定 (2) 呉キャンパス整備計画に基づく整備工事の実施 (3) 広島キャンパス移転に向けた準備 (4) 学部・キャンパス間、地域との交流促進 [3] 組織体制の見直し 実践的で質の高い教育を実現するための組織体制を検討する。 (1) 教育改革と連動した学部・大学院改組の検討および2018年度公認心理師養成課程の設置に向けた準備 (2) 教育・研究の推進を目的としたOIT梅田タワーの活用方法の検討 【具体的指標・効果(成果検証)】 [1] 教育改革 (1) ①学生の志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育を目指した教育プログラムの策定 ②これからの時代に求められる「専門職業人」を養成するための新たな教育プログラムの策定 ③ICTの活用によるディプロマ・ポリシーに関する学生の学修成果の収集・整理・可視化 (2) 地域貢献・地域問題の解決を行うため、ボランティア実習への参加等、地域をはじめとする関係者と協働した教育プログラムの策定 (3) ①卒業教育にかかる各学科・専攻の現状把握および全学的な取り組みに向けたプログラムの策定 ②分野横断型教育を視野に入れた社会人の学び直しプログラムの策定	1. 自己評価による達成度 [1] 教育改革 (1) 本学の学生が必修で受講するスタンダード科目だけでなく、学生の志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育を目指した教育プログラムとして、オプション科目を設定した。また、2020年度から全学部で正課として導入される専門職連携教育(IPE)において、新たな学内演習のシナリオ事例を担当教員と検討し8件増やした。 ディプロマ・ポリシーに関する学生の学修成果の収集・整理・可視化については、学修評価システム「ディプロマ・サプリメント」における科目毎のディプロマウエイトを設定し、ディプロマチャート(ディプロマ達成度の図)の出力を行った。 (2) 学部・学科横断型教育プログラムの策定について、医療福祉学部、心理学部、医療経営学部を中心とした試行プログラムを策定し、2018年度より正課外で試行実施することとした。 (3) ホームカミングデー(卒後教育研修会)において、アンケートを行ったことで、卒後教育ならびに社会人の学び直しについてのニーズを把握した。 また、遠隔講義を可能とする「みらいの教室」の整備を行った。 [2] キャンパス整備 (1) 東広島キャンパス整備構想を策定し、基本設計に向けた諸条件をまとめた。 (2) 教育会館(仮称)新築にかかる基本設計・実施設計を完了させた。8・9号館跡地整備については、学生や教職員、地域住民がより愛着を持てるよう、複数年かけて協働で整備するよう計画を見直し、検討する団体を立ち上げた。 (3) 移転に係る課題を抽出したことで、対処すべき事項を明確化した。 (4) 学部・キャンパス間、地域との交流促進を図る施策のひとつとして、8・9号館跡地を「みんなの庭園(バラ園)」として整備することとし、学生、教職員、地域住民で整備計画を検討する団体を立ち上げた。 [3] 組織体制の見直し (1) 2020年度学部・大学院の改組・改革案について、学部長会議を経て、10月25日開催の理事会において承認を得た。文部科学省等への必要な申請手続きに向けて、計画どおり準備を進めている。 公認心理師教育課程の設置については、カリキュラム等を策定し、2018年3月をもって文部科学省および厚生労働省への申請手続きを完遂した。 (2) 本学医療栄養学部による食育活動をOIT梅田タワー「菜の花食堂」で展開することで、本学の教育成果を学園ならびに地域の方へ広く認知することにつなげた。また、学園内連携による教育・研究の充実に向け、OIT梅田タワーの教室と相互接続可能な遠隔講義システム「みらいの教室」を東広島キャンパスおよび呉キャンパスに整備した。 2. 実施した施策 [1] 教育改革 (1) 学生の志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育を目指した教

[2] キャンパス整備 (1) 東広島キャンパス整備構想に基づいた設計の諸条件の確定 (2) 呉キャンパスにおける教育会館(仮称)の設計完了および8・9号館跡地整備工事の竣工 (3) 医療経営学部、心理科学研究科実践臨床心理学専攻、心理臨床センターの移転計画の策定 (4) 学部・キャンパス間、地域との交流促進に向けた施策の実施 [3] 組織体制の見直し (1) ①教育改革と連動した学部・大学院改組計画の策定 ②公認心理師養成課程の設置に向けた文部科学省や関係機関への申請手続きの完遂 (2) 教育・研究の推進を目的としたOIT梅田タワーの活用計画の策定	育プログラムとして、スタンダード科目だけでなく、オプション科目を設定したことで、きめ細やかな教育が行える環境整備を進めた。具体的には、2016年度から導入している新カリキュラムの検証を目的に、全学部の1年次生に対しアンケートを実施し、その結果の検証を踏まえ、教育改革WSを中心に2018年度から順次導入する新カリキュラムについて、スタンダード科目およびオプション科目のシラバス案を作成した。また、専門職連携教育(IPE)の2020年度全学導入にむけて、新たな学内演習のシナリオ事例を担当教員と検討し増やすなど、継続して全学導入に向けた準備を進めた。 ディプロマ・ポリシーに関する学生の学修成果の収集・整理・可視化については、学修評価システム「ディプロマ・サプリメント」における科目毎のディプロマウエイトの設定を行った。 (2) 学部・学科横断型教育プログラムの策定について、2018年度より医療福祉学部、心理学部、医療経営学部において正課外で試行実施することとし、学部横断プログラム検討WGにおいてプログラムを策定した。 また、2020年度から、正課として学部・学科横断型教育プログラムを導入する方針を固めた。 (3) 卒後教育の全学的な実施に向けた教育プログラムを策定するため、ホームカミングデー(卒後教育研修会)において、卒後教育についてのアンケートを実施し、卒業生の要望等学び直し教育に必要な情報収集を行った。また、東広島キャンパスLL教室、呉キャンパスLL教室1で遠隔講義を可能とする「みらいの教室」の整備を行い、社会人の学び直しにおいても他キャンパスから受講が可能な環境を整備した。 [2] キャンパス整備 (1) 東広島キャンパス整備構想として、陸上競技場等整備、健康増進センター(仮称)新築、1・2号館前および1号館エントランス整備計画を策定し、基本設計に向けた設計諸条件をまとめた。また、テニスコート付近の駐車場設置工事を計画し、当工事を竣工した。 (2) 教育会館(仮称)新築にかかる基本設計・実施設計について、教育会館(仮称)整備WGでの検討を経て内容を確定させた。また、8・9号館跡地整備にかかるコンセプトを「みんなの庭園(バラ園)」とし、学生や教職員、地域住民がより愛着を持てるよう、複数年かけて協働で整備するよう計画を見直したうえ、検討団体として「くれローズクラブ(仮称)」を立ち上げた。さらに、体育館雨漏れ補修工事および床張替え工事を竣工し、また、クラブハウス新築にかかる基本設計・実施設計を完了した。 (3) 2020年度から2キャンパス体制へスムーズに移行するために、広島キャンパス移転に係る課題を抽出し、対応案と全体スケジュールを策定した。 また、東広島キャンパスの受け入れ体制を整えるため、教室や研究室等の移転場所のシミュレーションを行った。 (4) 学生・教職員が学部やキャンパスの垣根を越え、また地域の多様な人々と活発に連携・交流できる環境をつくることをキャンパス整備構想のコンセプトに掲げ、共同利用を想定した部室や、障がい者・高齢者の利用を想定したバリアフリー等を設計ならびに諸条件に反映させた。また、8・9号館跡地について、「みんなの庭園(バラ園)」として整備することとし、学生、教職員、地域住民で整備計画を検討する団体を立ち上げた。 [3] 組織体制の見直し (1) 広国ブランド「地域の健康を守り、健康寿命を延伸する健康・医療・福祉分野の総合大学」確立に向けて、2020年度学部・大学院の改組・改革案を、外部環境・内部環境を踏まえHIU教育改革プロジェクトにおいて策定し、学部長会議を経て、経営会議、理事会において承認された。これを受けて、2020年度学部・大学院の改組・改革計画に基づき、関係部署・教員と連携して、新設・改組を行う学科のカリキュラム編成および、教育研究上の目的、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの策定を行い、文部科学省等への必要な申請手続
--	--

きの準備を進めている。

また、2018年度に心理学部心理学科および大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻に公認心理師教育課程を設置することとし、カリキュラムの策定や学則等規定改正を行い、文部科学省ならびに厚生労働省へ申請書を提出した。

- (2) 教育・研究の推進を目的としたOIT梅田タワーの活用計画のひとつとして、本学医療栄養学部による食育活動をOIT梅田タワー「菜の花食堂」で展開した。具体的には、本学医療栄養学部が常翔ウェルフェアと協働し、当該学部の学生が考案した栄養バランスのとれたレシピをOIT梅田タワー「菜の花食堂」において、季節毎にランチメニューとして提供し、提供したメニューは、レシピカードにして食堂内に設置することで、本学の教育成果を学園ならびに地域の方へも発信した。

また、学園内連携による教育・研究の充実を目的として、大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部と意見交換を行うとともに、OIT梅田タワーの教室と相互接続可能な遠隔講義システム「みらいの教室」を東広島キャンパスおよび呉キャンパスに整備し、教育・研究の連携手段とした。

3. その他

【今後の計画】

[1] 教育改革

- (1) 2020年度から全学必修となる専門職連携教育(IPE)において、Step1～4まで段階的にどのように学修し、それぞれの到達点がどこなのかを明確にする。また、ディプロマ・ポリシーに基づく学修成果を収集・整理・可視化するため、正課科目に関しては、各学科のディプロマウエイトの数値調整を進め、ディプロマチャートを完成させるとともに、正課外の活動の評価についても「ディプロマ・サブメント」への反映を進める。
- (2) 2018年度の正課外での試行実施に向け、WGで実施準備を行う。また、2020年度から、正課導入するプログラムについては、学部・学科と協議の上、内容の具体化、履修方法、制度の策定を行う。
- (3) 卒業教育について、各学科の卒業教育の実施状況およびホームカミングデー(卒業教育研修会)でのアンケートの結果から、ニーズを抽出し、全学的な実施に向けた教育プログラムを策定する。なお、2017年度末に竣工した「みらいの教室」の活用も含め検討を進める。

[2] キャンパス整備

- (1) 東広島キャンパス整備構想について、2018年度中に1・2号館前および1号館エントランス整備ならびに陸上競技場等整備を竣工させ、また、健康増進センター(仮称)およびスポーツ施設整備事業における管理棟新築・外構フェンス設置にかかる設計を完了させる。
- (2) 呉キャンパス整備構想について、2018年度中に教育会館(仮称)およびクラブハウスならびに体育館におけるトイレ等改修を竣工させ、また、教育会館(仮称)外構および出入口新設にかかる設計を完了させる。また、8・9号館跡地整備について、くれろズクラブ(仮称)にてプランを検討のうえ設計を進め、地域に根付き、愛着の持てる庭園(バラ園)の整備を進める。
- (3) 課題に対する対応案について、関係部署を交えて協議し対応内容と手段を固める。これらは、学内で共有し、スケジュールに基づき随時実行する。
- また、東広島キャンパスでの移転先について継続して検討を進め、移転場所を確定させる。
- (4) 多様な人々の交流・学びを促進するための設計、諸条件、取組みについて、各整備箇所を具体化していく中で引き続き検討していく。

[3] 組織体制の見直し

- (1) 2020年度学部・大学院の改組・改革計画に基づき、関係部署・教員と連携して、文部科学省等へ必要な申請手続きを行う準備

	を進める。また、新学部・学科の学生募集に向けて、具体的な広報手段・時期について入試センターと協議し開始する。 (2) OIT梅田タワー「菜の花食堂」での本学医療栄養学部による食育活動は、今後も継続して実施することで、教育成果を広く発信する。学園内連携による教育・研究については、引き続き、大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部と連携方法等を協議する。
--	---

常翔学園中学校・高等学校:2件

No.1 探究授業の拡大とSSH(SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL)指定校(申請中)としての取組 [高校教頭]

事業計画の目的、計画など	実績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 現在、我が国は大学教育・高校教育・大学入試の三位一体の教育改革を断行しているが、本校は10年以上にわたり、キャリア教育を通じて、アクティブ・ラーニングを行ってきたという歴史に加えて、理系教育について長年取組んできたという自負がある。これを契機に、現在薬学医療系進学コースのみで実施している自然科学分野の探究授業「ガリレオプラン」を発展させ、スーパーコース・一貫コースⅠ類においても導入する。新しい「ガリレオプラン」では、タブレットなどのICT機器を活用する。また、学園内外の大学との新しい連携システムを構築し、大学の研究室訪問や海外の学生との交流を行うことにより、「科学を探究する力」と「21世紀型スキル」を育成していく。これにより、本校は「進学校」から「教育研究開発校」へと進化し、既に導入しているICT教育と共に、新しい教育の在り方を追求し、SSH指定校としての環境をより整えていく。さらに、これらの効果は、補助金の獲得や他のSSH指定校との連携事業だけではなく、広報へと繋げる手段としても活用する。 《実施計画》 2017年度(1年生「ガリレオプランⅠ」、2年生「ガリレオプランⅡ」) ①科学探究プログラム「ガリレオプラン」の指導法・教材の研究開発 ・本校教員とTAの連携による実験技術指導 ・タブレットなどのICT機器・デジタル教材等を活用した授業法の研究 ・大学・研究所等との連携、高大接続の在り方の研究 ②各大学との連携 ・高大接続の推進 ・学園内大学の研究室訪問 ・2年生を対象にした夏期研究合宿 ・サイエンス・レクチャーの実施 ・タブレットを利用した海外の学生との交流 ・ネイティブ教員との英会話授業 ・英語による論文作成やプレゼンテーションの取組 ・海外研修、海外姉妹校提携など、国際性を育成する取組 ③成果発表(英語発表含む) ・各種科学系コンテストや他校で開催される発表会へ参加 ・校内発表会の開催 ● 2017年1月現在、SSH指定校を文部科学省へ申請中であるが、2017年度に採択されなかった場合は、	1. 自己評価による達成度 実施計画に基づいて、各種施策を実施した。ガリレオプラン拡充の1年目で様々な苦労があったが、当初想定よりも生徒たちの探究授業への理解は深まった。おかげで、SSHの申請書類は昨年度よりも完成度が高いものを提出することができたと自負している。このように、本校の取り組み自体は大変先進的なものであり、これまでの本校の教育を大きく変える原動力となりうるものであり、さらなる発展が期待できる。しかし、SSHの申請結果そのものは不採択となったため、「概ね達成」とした。 2. 実施した施策 ・本校教員とTAの連携による実験技術指導 確保できたTAは3名のみであった(定員8名)。 ・タブレットなどのICT機器・デジタル教材等を活用した授業法の研究 生徒貸与用のiPadをフル活用することができた。 ・大学・研究所等との連携、高大接続の在り方の研究 学園内大学については、連携教育推進委員会を通して、ガリレオプランの各種ゼミがいずれの大学のどういった学部と連携するのかを決める事ができた。また、学園外大学については、広島大学や立命館大学を訪問した。 ・各種科学系コンテストや他校で開催される発表会へ参加 科学部による「科学の甲子園」参加において、見事5位に入賞した。化学ゼミは10月に名古屋で開催された「化学グランドコンテスト」に参加した。また、化学ゼミ、生物ゼミは12月にリバネス主催の「サイエンスキャスル」に参加し、1チームが「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・校内発表会の開催 文化祭でのポスター発表は実施済み。また、ガリレオプラン年間の集大成である校内発表会を、2月3日に開催し成功した。 ・2017年12月に2018年度SSH指定校を文部科学省へ申請したが、残念ながら不採択であった。 3. その他 【今後の計画】 次年度は以下のものを実施する旨、検討中。 ・高校2年生の希望者を対象にした英語エンパワーメントプログラム(留学生を招き、5日間本校で英語を通して論理的思考力、クリティカルシンキング、英語コミュニケーション能力を養うプログラム。生徒5人に1人の留学生は生徒自宅にホームステイし、日本に居ながらにして留学環境を作る。) ・サイエンス・フェアー(高校3年生の英語ポスター発表、著名な企業人・科学者の講義などのイベント)の実施 ・タブレットを利用した海外の学生との交流 ・ネイティブ教員との英会話授業 ・英語による論文作成やプレゼンテーションの取組 ・海外研修、海外姉妹校提携など、国際性を育成する取組

2018年度の採択を目指す。 【具体的指標・効果（成果検証）】 ① 補助金の獲得 ② 他のSSH指定校との連携事業の実施 ③ 期待される効果 ・文部科学省の補助金獲得、また理系ブランド校としての認知により優秀な生徒獲得につながる。 ・「理系進学者の減少、特に女子の減少」をくい止め、我が国の理系教育・科学立国に貢献する。 ・他校だけでなく、本学園の学校間の連携もより強化される。 ・大学との連携により、生徒が進路や将来について考えるきっかけになる。 ・生徒の「課題設定能力・科学的探究心」の育成に繋がる。 ・他校生、特に海外の生徒との交流を通じてコミュニケーション能力やグローバルマインドの育成に繋がる。	
---	--

No.2 タブレット端末を活用したICT教育の積極的推進 〔高校教頭、事務室〕

事業計画の目的、計画など	実 績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 2016年度に予定通り全館Wi-Fi化工事を完了し、専任・特任全教員用のタブレット端末を購入、授業に役立てている。また生徒用の100台を購入し授業中に貸し出すことで、教師からの一方通行ではなく、生徒との相互通信が可能なICTの教育で活用が始まった。 2017年度入学生からは、新入生全員がタブレット端末を持参して授業で活用する。アクティブ・ラーニングへの移行と共に、新しい教育の在り方を追求する。現時点で教室に設置しているプロジェクターは中学校の3教室のみで、他の教室は教員が毎時間プロジェクターを運ぶ必要があるため、早急に全教室にプロジェクターを設置する。 《実施計画》 私立高等学校等IT教育設備整備推進事業費(補助金)申請:4月 教室設置プロジェクター20台設置工事:9月 研修会 毎週金曜日18時実施、講演会を年2回実施予定 ICT公開授業を開催し、他校の教員に公開し講評を頂いて授業改善に役立てる。また、講演会、懇親会も開催し、同じくICT教育を実践している他校との連携・友好を広める。 【具体的指標・効果（成果検証）】 ICT教育推進プロジェクト会議報告書の作成及び校務会報告 生徒、保護者の満足度アンケート等の結果	1. 自己評価による達成度 大変順調に進んでいる。単にタブレットを使用するだけでなく、タブレットの使用により、また他校先生方との交流や研究会参加により、常翔の教育が大きく変化しているのを誰もが感じている。特に公開授業の開催は、本校の歴史にとって本当に大きな1ページとなった。 2. 実施した施策 全教員がタブレットを所持し、ICTを利用した授業や業務改善に取り組んだ。また、中学・高校のすべての新入生がタブレットを購入し、教員と生徒の両者がタブレットを利用した授業を実践研究した。 11月にはICT公開授業を実施し、全国から200名もの参加者を集めることができた。そこでは、本校教員だけでなく外部の方々にも授業を見学して頂き、その後の教科別研究協議会にて活発な意見交換を行った。また3名の講師を招聘した教育講演会、その後の懇親会も大変盛り上がり、今後の我が国の教育について参加者全員で協議する良い機会となった。 3. その他 【今後の計画】 2018年度は中高6学年中の4学年がタブレットを利用した授業を実施することになり、ICT教育がより進捗するだけでなく、アクティブ・ラーニングやグローバル教育も含め、授業はもとより教育そのものを改善していく。学校全体の2018年度ICT教育目標を「ICTと授業デザイン、ルーブリック(仮題)」として1年間取り組む。 また、今のところHR教室のプロジェクターが1学年分しか設置されておらず、今後補助金等を活用しながら早急に全HR教室に設置するよう整備していきたい。

常翔啓光学園中学校・高等学校:2件

No.1 情報端末を活用したICT教育推進事業〔教頭、教務部、事務室〕

事業計画の目的、計画など	実 績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 2016年度の事業計画内容を、さらに推進・発展させることを目標とする。 「2010年代中に1人1台の情報端末による教育」を推進するなど、タブレット等の情報端末を活用した教育の推進が日本の新しい教育制度の大命題となっている。公立の小・中学校でこの教育を受けてきた生徒を受け入れるためにも、本校のICT教育推進は必要不可欠なものである。 また大学入試センター試験に代わる新テストでは、出題・解答・結果提供方式においてCBT・IRTを導入する方向で検討されている。この状況から考えても、各教科でも情報端末を有効利用した教育の推進が求められている。 2015年度中の導入計画と検証を経て、2016年度には教室等の施設改修ならびに本格システム導入を行い、中学全学年と高校1年生での試行授業も順調に始まった。2017年度にはさらに多くの学年への拡大を目指し、施設改修とICT機器の活用頻度を増やす。教員を対象としてタブレット等の情報端末を1人1台配付し、ICTを活用した授業展開を推進する。生徒を対象として情報端末を貸与し、自ら探究し思考する能力の育成を図る。 《実施計画》 2015・2016年度中に実施済みの内容は以下の通りであり、これらの検証結果を基に2017年度の事業を推進する。 (2015年度事業) ・「ICT教育推進WG」を発足(2015年10月) 構成員:教職員から選抜(校務の一環として実施) 期間:2015年10月～2017年3月(予定) ・ICT教育実践校の視察(2015年9月～2016年3月) 目的:ICT教育実践校の視察、情報収集。ICTを活用した学習サポートパッケージの選定。 ・本校施設設備改修工事 校内手続および工事完成:第1次(教職員用)手続 2015年11月、完成2016年3月 (2016年度事業) ・本校施設設備改修工事 校内手続および工事完成:第2次(生徒用) 手続き 2016年5月、完成2016年9月 ※教室など生徒用部分については大阪府の補助金対象事業として実施。 ・ICT教育実践校の視察および研修への参加(2016年4月～2017年3月) 目的:ICT教育実践校の視察および情報収集。ICTを活用した学習に関する研修会・講習会への参加。 ・2017年度当初予算への組込 (2017年度 実施計画) ・本校施設設備改修工事 校内手続および工事完成:第3次(生徒用) 手続き 2017年5月、完成2017年12月(予定) ※教室など生徒用部分については大阪府の補助金対象事業として実施する。 ・ICT教育実践校の視察および研修への参加(2017年4月～2018年3月)	1. 自己評価による達成度 計画どおりに進んだ。職員会議でも成果発表を実施したが、ICT機器を活用した授業を展開することにより、授業進度が早まり、演習の時間や繰り返しの学習が展開できているという声が多い。他校の授業方法の研究や互いの授業見学を基に自己研鑽の機会が増えている。全国的に教育改革が進んでいる中、本校においてもその意識が芽生え、積極的に取り組む風土ができた。 2. 実施した施策 ・タブレットの購入と授業などでの活用 2017年4月当初から、教員1人1台のタブレット貸与ができた。昨年から始まったICT機器を活用した授業に広がりが見られ、特に中学1年生と高校1年生での授業方法に大きな変化がみられた。 ・本校施設設備改修工事 教室など生徒使用部分について、大阪府の補助金対象事業として、夏期休業期間中に実施した。昨年度中に1号館すべての教室においてWi-Fi環境が整備されたが、高2学年全クラスと高3学年の一部のクラスが使用する教室にも、電子黒板機能付きプロジェクタが設置できた。タブレットなどICT機器を活用しての本格的な授業展開が拡大した。 ・デジタル教科書の購入とそれを活用した授業 デジタル教科書と電子黒板機能付きプロジェクタを活用することにより、いわゆる”Chalk & Talk”と異なる21世紀型授業の展開が広まった。 ・タブレットを活用した授業の拡大 2017年4月当初から、教員1人1台のタブレット貸与ができた。昨年から始まったICT機器を活用した授業では既に半数以上の授業でICT化が進み、特に中学1年生と高校1年生での授業方法に大きな変化がみられる。 3. その他 【今後の計画】 ・本校施設設備改修工事 来年度は、1号館内の施設未着工教室に電子黒板機能付きプロジェクタを設置する。 ・中学1年生のモデルクラスでの取り組み 生徒貸与用タブレットの一部を、中学1年生に優先的に使用させた。各授業で積極的に活用し、自ら学び、調べ、そして発表するという一連の活動ができる生徒の育成に取り組めた。一方、ネットワークのつながりや生徒自身の慣れの部分での差があるなどの改善点も見えた。今後、引き続き取り組んでいく。 ・生徒貸与用タブレットのさらなる活用 タブレット1人1台持たせることの検討は引き続き行うが、今年度購入できた生徒貸与用のタブレットの活用が広がった。今後新たな計画としては、高3学年での「総合的な学習の時間」にタブレットを使い、「On Line 英会話」に取り組み、英語をツールとして使える生徒の育成を図る。

目的:ICT教育実践校の視察および情報収集。 ICTを活用した学習に関する研修会・講習会への参加。 ・生徒対象情報端末貸与 目的:ICTを活用した授業への対応 ※生徒貸与分については大阪府の補助金対象事業として実施する。 ・2018年度当初予算への組込 【具体的指標・効果（成果検証）】 1. ICT教育システムの導入による授業内容の改善、生徒の勉強意識の変革、課題解決型授業への展開、新大学入試制度への対応、校内の情報環境の整備。 2. 能動授業、協働学習、反転授業、適応学習、探求型学習など新しい学習体系に向けての活用。	
---	--

No.2 60周年記念フェスティバル 【教頭、事務室】

事業計画の目的、計画など	実 績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 ・開校60周年記念行事として、従来の周年行事のような堅苦しさを廃し、在校生とその保護者・卒業生・学園関係者を招いてフェスティバルを行う。 ・教職員・在校生・卒業生の帰属意識の涵養と、本校に対する誇りと「啓光愛」を育むことを目的とする。 ・四位一体の行事として楽しめるものとする。 《実施計画》 ・2017年10月29日(日)10:00～14:00 本校にて、記念式典、吹奏楽部・軽音楽部・OBジャズバンドの演奏、60年の歴史のパネル展示、サッカー部の招待試合、ラグビーOB戦、ワングル部によるクライミング披露、60年史の映像披露、記念行事として生徒の夢を叶える企画、模擬店などを行う。また食堂では1杯100円カレーを提供する。 ・60周年記念オリジナルグッズを配布する。 ・スタッフを含む来場者総数1,000名を予定。 【具体的指標・効果（成果検証）】 ・スタッフを含む来場者予定総数1,000名の達成。 (在校生300名、後援会(保護者)・啓聖会・来賓400名、その他教職員・吹奏楽部等のクラブ員300名)	1. 自己評価による達成度 台風接近に伴い、長期間にわたる計画のもと準備してきた内容が、大きく変更せざるを得なくなり、本当に残念であった。本校に直接かわりをもつ方だけでなく、このために協力をしていただく方にまで影響が及んだことも残念であった。しかし、生徒が中心となる特別企画や、3号館の完成とも相まって実施できた音楽イベントなどは、心温まるものであった。また、卒業生から寄贈の記念碑が完成し、除幕式を経て披露できたことも、たいへん喜ばしいことである。計画とは大きく変わってしまったが、教職員・在校生・卒業生の帰属意識の涵養と、本校に対する誇りと「啓光愛」を育むという目的は果たせた。 2. 実施した施策 ・60周年記念フェスティバル(計画) クライミング選手権・60周年記念式典・60年の歴史展示会・記念碑除幕式・音楽演奏会・ラグビー部OB戦・ミニSL運行・模擬店 ・60周年記念フェスティバル(実施) ※台風の接近により、計画を変更し実施 60周年記念式典・パネル展示「60年の歩み」・記念碑除幕式・コーラス体験「校歌を歌おう！」・ICT授業体験・音楽演奏会・SL模型展示・ラグビー部OB「トークイベント」・顕微鏡体験・クライミングと登山紹介・中学校新コース紹介・模擬店 ・60周年記念誌およびオリジナルグッズの配付 ・来場者集計 台風の接近により、計画を大きく変更して実施。大雨の影響で屋外イベントが実施できず、来場者総数は予定していた1,000名には至らなかったが、在校生、後援会(保護者)・啓聖会・来賓など、約500名が来場し大盛況であった。 3. その他 【今後の計画】 ・60周年記念誌およびオリジナルグッズの配付 台風の接近により、当日になり参加を取りやめる卒業生や旧教職員が多数おられたので、式典会場で渡す予定にしていた記念誌やオリジナルグッズを、郵送などの方法でお届けした。

3. 各学校の組織の改編

(1) 新設・改組等変更

※ 学部等名称末尾の()内は入学定員を、[]内は3年次編入学定員を示す。(単位:人)

■ 大阪工業大学

1. 研究科・学部等設置〔2017年度開設〕

・大学院

大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 博士前期課程 (30)
博士後期課程 (2)
電気電子・機械工学専攻 博士前期課程 (50)
博士後期課程 (2)
化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 (30)
博士後期課程 (2)

〔本件にかかる手続〕 設置届出 (2016年4月提出) ※研究科の専攻設置

大学院 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻 博士前期課程 (30)
博士後期課程 (2)

〔本件にかかる手続〕 設置届出 (2016年4月提出) ※研究科設置

・学部

ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科 (90) [5]
システムデザイン工学科 (90) [5]
空間デザイン学科 (100) [5]

〔本件にかかる手続〕 設置届出 (2016年4月提出)

2. 入学定員変更〔2017年度変更〕

・学部

工学部 都市デザイン工学科 +10 (90→100) ±0 [5]
建築学科 +10 (140→150) ±0 [5]
機械工学科 +10 (130→140) ±0 [5]
電気電子システム工学科 +10 (115→125) ±0 [5]
電子情報通信工学科 +10 (100→110) ±0 [5]
応用化学科 +10 (120→130) ±0 [5]
環境工学科 +5 (70→75) ±0 [5]
生命工学科 +5 (65→70) ±0 [5]
情報科学部 コンピュータ科学科 +10 (95→105) ±0 [5]
情報システム学科 +10 (95→105) ±0 [5]
情報メディア学科 +10 (95→105) ±0 [5]
情報ネットワーク学科 +10 (95→105) ±0 [5]

〔本件にかかる手続〕 収容定員関係学則変更認可申請 (2016年3月提出)

3. 学生募集停止〔2017年度募集停止〕

・大学院

工学研究科 都市デザイン工学専攻 博士前期課程 (15)
博士後期課程 (3)
環境工学専攻 博士前期課程 (10)
博士後期課程 (3)
建築学専攻 博士前期課程 (15)
博士後期課程 (3)
機械工学専攻 博士前期課程 (25)
博士後期課程 (5)
生体医工学専攻 博士前期課程 (20)
博士後期課程 (4)
電気電子工学専攻 博士前期課程 (25)
博士後期課程 (3)
応用化学専攻 博士前期課程 (15)
博士後期課程 (3)
空間デザイン学専攻 博士前期課程 (10)
博士後期課程 (3)

※在学生の修了等を待つて廃止予定。

〔本件にかかる手続〕 学生募集停止報告（2016年4月提出） 学則変更届出（2016年3月提出）

・学部

工学部 空間デザイン学科（90）〔5〕

ロボット工学科（80）〔5〕

※3年次編入学募集停止は2019年4月予定。

※在学生の卒業等を待つて廃止予定。

〔本件にかかる手続〕 学生募集停止報告（2016年4月提出） 学則変更届出（2016年3月提出）

4. 廃止〔2017年度廃止〕

・大学院

工学研究科 都市デザイン工学専攻 博士前期課程（15）＜2017年度から学生募集停止＞

環境工学専攻 博士前期課程（10）＜ 〃 ＞

博士後期課程（3）＜ 〃 ＞

建築学専攻 博士後期課程（3）＜ 〃 ＞

機械工学専攻 博士前期課程（25）＜ 〃 ＞

電気電子工学専攻 博士前期課程（25）＜ 〃 ＞

応用化学専攻 博士前期課程（15）＜ 〃 ＞

空間デザイン学専攻 博士前期課程（10）＜ 〃 ＞

博士後期課程（3）＜ 〃 ＞

〔本件にかかる手続〕 学則変更届出（2018年3月提出）

・学部

工学部 生体医工学科（110）〔5〕＜2010年度から学生募集停止＞

〔本件にかかる手続〕 学則変更届出（2017年12月提出） 寄附行為変更届出（2018年3月提出）

■ 摂南大学

なし

■ 広島国際大学

1. 学生募集停止〔2017年度募集停止〕

・大学院

工学研究科 建築・環境学専攻 修士課程（5）

情報通信学専攻 修士課程（5）

※在学生の卒業等を待つて廃止。

〔本件にかかる手続〕 学生募集停止報告（2016年8月提出） 学則変更届出（2016年11月提出）

2. 廃止〔2017年度廃止〕

・大学院

工学研究科 建築・環境学専攻 修士課程（5）＜2017年度から学生募集停止＞

情報通信学専攻 修士課程（5）＜ 〃 ＞

※工学研究科を廃止。

〔本件にかかる手続〕 廃止届出（2018年3月提出） 寄附行為変更届出（2018年3月提出）

・学部

工学部 情報通信学科（70）＜2013年度から学生募集停止＞

※工学部を廃止。

〔本件にかかる手続〕 廃止届出（2018年3月提出） 寄附行為変更届出（2018年3月提出）

■ 常翔学園高等学校

なし

■ 常翔啓光学園高等学校

なし

(2) 申請・届出等

大阪工業大学

1. 廃止手続

・大学院

学則変更届出（2018年3月提出）

工学研究科	都市デザイン工学専攻	博士前期課程（15）	＜2017年度から学生募集停止＞
	環境工学専攻	博士前期課程（10）	＜ 〃 ＞
		博士後期課程（3）	＜ 〃 ＞
	建築学専攻	博士後期課程（3）	＜ 〃 ＞
	機械工学専攻	博士前期課程（25）	＜ 〃 ＞
	電気電子工学専攻	博士前期課程（25）	＜ 〃 ＞
	応用化学専攻	博士前期課程（15）	＜ 〃 ＞
	空間デザイン学専攻	博士前期課程（10）	＜ 〃 ＞
		博士後期課程（3）	＜ 〃 ＞

・学部

学則変更届出（2017年12月提出）

工学部 生体医工学科（110）〔5〕＜2010年度から学生募集停止＞

摂南大学

なし

広島国際大学

1. 廃止手続

・大学院

廃止届出（2018年3月提出）

寄附行為変更届出（2018年3月提出）

工学研究科	建築・環境学専攻	修士課程（5）	＜2017年度から学生募集停止＞
	情報通信学専攻	修士課程（5）	＜ 〃 ＞

※工学研究科を廃止。

・学部

廃止届出（2018年3月提出）

工学部 情報通信学科（70）＜2013年度から学生募集停止＞

※工学部を廃止。

常翔学園高等学校

なし

常翔啓光学園高等学校

なし

(3) 年次進行中（未完成）の学部等

大学名称	申請学部等	申請区分	開設年度
大阪工業大学	大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 (M) (D) 電気電子・機械工学専攻 (M) (D) 化学・環境・生命工学専攻 (M) (D)	届出	2017
	大学院 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻	届出	2017
	ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科 システムデザイン工学科 空間デザイン学科	届出	2017
	大学院 理工学研究科 生命科学専攻 (D)	認可	2016
	大学院 看護研究科 看護学専攻 (M)	認可	2016
広島国際大学	医療栄養学部 医療栄養学科	認可	2014
	心理学部 心理学科	届出	2015

4. 各部門の事業報告

■ 大阪工業大学

- 2017年 3月～2018年 3月
学内合同企業説明会(大阪府雇用開発協会、兵庫県雇用開発協会、大阪工業大学校友会、学園校友課等と連携)、企業の単独説明会を実施。〈就職課〉
- 2017年 4月～2018年 3月
NEDOからの委託研究調査(「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開／ロボットの社会実装におけるイノベーション創出人材の育成」)を行い、ロボットサービスビジネススクールを開催。
〈ロボティクス&デザインセンター〉
- 2017年 4月～2018年 3月
海外協定校からの学生92人を特別履修生として受け入れ。研究室に配属し教員の指導の下インターン・研究活動、スタディツアー等に参加。〈国際交流センター〉
- 2017年 5月
梅田キャンパス常翔ホールでロボティクス&デザイン工学部開設記念シンポジウムを開催。約500人が参加。
〈ロボティクス&デザイン工学部〉
- 2017年 5月、7月
情報科学部とロボティクス&デザイン工学部の学生・教員が協働で参加し、ロボカップ世界大会2017で世界7位・Best in Navigation賞を受賞。2017年度ロボカップジャパン@ホームリーグで準優勝。〈情報科学部〉
- 2017年 5月～11月
課外活動団体「RDクラブ」が産学連携プロジェクト活動実施。パートナー企業11社、コーチ教員と連携、地域や企業が抱える課題解決を図り、成果発表会を11月の茶屋町祭(学園祭)で行った。〈ロボティクス&デザインセンター〉
- 2017年 5月～2018年 3月
学部3年次、大学院1年次を対象に就職支援行事を実施(就職ガイダンス5回、就職模擬試験4回、面接対策セミナー2回、SPI対策セミナー、エントリーシート対策セミナー各1回、業界セミナー)。〈就職課〉
- 2017年 6月
「NHK学生ロボコン2017～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～」にロボットプロジェクトチーム「大工大エンジュニア」が参加。ベスト4位に入賞。〈工学部〉
- 2017年 6月～ 8月
国際PBLで海外7大学、国内1大学にて8プロジェクトを実施し97人を派遣。海外5協定校と6プロジェクト(うち4つはJSTさくらサイエンスプランによる支援)を実施。本学学生74人が参加、協定校学生を67人受入。〈国際交流センター〉
- 2017年 6月～11月
IAESTE(海外インターンシップ)によりポーランドから2人の学生を工学部環境工学科で約2ヵ月受入。本学学生1人をインドのマニパル工科大学に約1ヵ月半派遣。〈国際交流センター〉
- 2017年 6月～2018年 3月
大宮キャンパス再開発計画の一環として、2号館、9号館、東学舎1号館、2号館等を改修。2号館、6号館、7号館、9号館、東学舎1号館、2号館の教室などの有線・無線LAN設備を整備。6号館4階、5階は各教室のAV設備を改修。
〈会計課、教務課、情報センター〉
- 2017年 6月～2018年 3月
研究ブランディング推進の一環として、情報科学部に「知能情報システム研究センター」を設置し、8ユニットで研究活動を開始。〈情報科学部〉
- 2017年 7月
保護者を対象とした教育懇談会(就職支援セミナー)を開催。255組377人の保護者が参加。〈企画課〉
- 2017年 7月
大宮キャンパス在学学生を対象にアルバイトに関する啓発セミナーと塾講師、施工管理補助など関連企業5社による個別相談会を開催。100人超が参加。〈学生課〉
- 2017年 7月
梅田キャンパス常翔ホールで「安藤忠雄氏講演会」を開催。500人を超える本学学生や地域、一般市民が参加。
〈ロボティクス&デザイン工学部〉
- 2017年 7月～ 8月
梅田キャンパスでオープンキャンパスを初開催。ロボティクス&デザイン工学部の学びの内容やキャンパスの魅力を受験生や保護者、高校教員等に紹介。のべ約2,500人参加。〈入試課〉
- 2017年 7月～11月
大阪府教育委員会などが開催する「大阪中学生サマー・セミナー」で7講座、「教文子どもサイエンスフェア」で2講座、「おおさかのづくりコレクション」で1講座を開講。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 7月～2018年 2月
海外研究支援プログラムで学生29人を派遣。うち13人はJASSO海外留学支援制度による支援、1人は文部科学省「トビタテ！留学JAPAN」による支援。学生は北米、欧州、アジアの大学等22機関で、1ヵ月から5ヵ月半程度の研究・インターン活動に従事。〈国際交流センター〉
- 2017年 8月
「inrevium杯 第17回レスキューロボットコンテスト」にロボットプロジェクトチーム「大工大エンジュニア」が参加。3位入賞に加え、特別賞「消防庁長官賞」を受賞。〈工学部〉
- 2017年 8月
サンデー毎日8月6日増大号全国240大学実就職率ランキング卒業生数1,000人以上において、全国ランキング5位。8年連続関西私立大学就職率No.1を達成。〈就職課〉
- 2017年 8月
「工作・実験フェア2017」を開催。小学生とその家族約4,800人が参加。〈工学部〉
- 2017年 8月～ 9月
学部3年次、大学院1年次のインターンシップを実施。147企業・団体に235人の学生が参加。学生参加数は過去最高。
〈就職課〉
- 2017年 8月～ 9月

- 東京ビッグサイトで開催された「イノベーション・ジャパン2017ー大学見本市&ビジネスマッチングー」＜主催：JST、NEDO＞に9シーズを出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 8月～2018年 3月
語学研修プログラム、文化体験プログラムにて、海外の協定校など計6校に夏期25人、春期13人、計38人の学生を派遣。〈国際交流センター〉
- 2017年 9月～11月
「本のプレゼン」ともいえる知的書評合戦「全国大学ビブリオバトル2017」の予選会を開催。院生1人が予選会・地区決戦を勝ち抜き、首都決戦に出場。〈図書館〉
- 2017年10月
城北祭(学園祭)期間中、大宮で特別企画展「木と寄り添う建築展」を開催。建築文化研究部による模型展示でワークショップも実施。319人が来館。〈図書館〉
- 2017年10月
「第10回大阪府生徒研究発表会」(大阪府教育庁、天王寺高等学校、本学共催)、「科学の甲子園大阪府大会筆記試験」を開催。SSH指定校を中心に府内の高校など28校の生徒が一堂に会し、科学に関する研究についてオーラルセッション(口頭発表)やポスターセッションを行った。〈入試課、ロボティクス&デザイン工学部〉
- 2017年10月
梅田キャンパスで学園祭(茶屋町祭)を初開催。約1,400人が来場。〈ロボティクス&デザイン工学部〉
- 2017年10月～12月
「nature&technology～自然と技術の共存～」をテーマに学生がブックカバー、しおり、POPをデザインし表彰する「工大ウォッチング大賞」を実施。城北祭(学園祭)等で全作品を展示。〈図書館〉
- 2017年11月
OITスタジアム(枚方キャンパス)に電光式スコアボードを設置。活動活性化に向けた環境を整備。〈学生課〉
- 2017年11月～2018年 2月
私立大学等改革総合支援事業 タイプ1「教育の質的転換」、タイプ3「産業界・他大学等との連携」に選定。〈会計課〉
- 2017年11月～2018年 3月
公募制推薦入試および一般入試(センター利用方式除く)において、理系学部「第2(第3)志望制度」を拡充。また、理系学部を対象に「文理併願方式」を新設し、新たな志願者獲得に向けた入試制度改革を実施。〈入試課〉
- 2017年11月、2018年 3月
文部科学省から採択された私立大学研究ブランディング事業「モノづくり大阪に躍動感をー地域産業支援プラットフォーム(大阪工業大学)の挑戦ー」の第1回、第2回セミナーを開催。計約160人が参加。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年11月～2018年 3月
平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定(事業名:モノづくり大阪に躍動感をー地域産業支援プラットフォーム(大阪工業大学)の挑戦ー)。〈会計課〉
- 2017年12月
知的財産PR隊プロジェクトの学生チームが近畿経済産業局主催の「Ai-spec2017」に参加し優勝。〈知的財産学部〉
- 2017年12月
大学院工学研究科化学・環境・生命工学専攻の学びを広く発信することを目的に「化学・環境・生命工学連携融合公開講座」を開催。約100人が参加。〈工学部〉
- 2017年12月～2018年 1月
平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」にかかる平成29年度私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)の交付を受け、500万円以上の研究設備5点を整備。〈会計課〉
- 2018年 2月
工学部応用化学科が新たな国際交流プログラム「3カ国国際PBLプログラム」を実施。同学科3年次生2人が台湾・インドネシアの学生とともに3カ国交流プログラムに参加。〈工学部〉
- 2018年 2月
国際PBL「米国インターンシップ・プログラム」を実施し、学部生・大学院生の5人が参加。サンフランシスコとシリコンバレーの企業や法律事務所などで幹部からの直接レッスンなどを経験。〈知的財産学部〉
- 2018年 2月
グランフロント大阪で大学等における研究成果の展示会「イノベーションストリーム KANSAI 2018」に参加。教員17人のシーズを出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2018年 2月
平成29年度社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会に知的財産学部のチームが近畿地区代表として出場。〈知的財産学部〉

■ 摂南大学

- 2017年 4月
国際交流センター主催講演会「今さら訊けない『グローバル人材』」を実施。〈国際交流センター〉
- 2017年 4月
「摂南経済ゲストレクチャー」でくまモンが出前講座を実施。〈経済学部〉
- 2017年 5月
寝屋川市立石津小学校の社会科地域学習「わたしたちの町のようすを知ろう」に学生・教職員が協力。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 5月
東京オリンピック・パラリンピック大学連携プログラム実施報告を実施。〈企画課〉
- 2017年 5月
春の薬草見学会を開催。〈薬学部・研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 5月
日本財団学生ボランティアセンターと協定を締結。〈学生課〉
- 2017年 5月
経営学部の学生が「大学は美味しい！！」フェアに出店。〈教務課・経営学部〉
- 2017年 5月～ 7月
交野市中学生理科セミナーを実施。〈理工学部・研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月
理工学研究科社会開発工学専攻の大学院生が日本写真測量学会から学術講演会論文賞を授与。〈理工学部〉
- 2017年 6月
寝屋川キャンパス交流会館お別れ会を実施。〈学生課〉
- 2017年 6月
交野市子どもプラン「防災キャンプ」を実施。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月
MOBIOテーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会で理工学部教員が発表。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月
大学発「知」の見本市「イノベーション・ジャパン2017」に出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月
国際ワークショップ「世代間格差を巡る経済学」を開催。〈経済学部〉
- 2017年 7月～ 9月

こどもけいざいセミナー「お金とけいざい」を実施。〈教務課・研究支援・社会連携センター〉

2017年 7月 「ゆらの助」の摂南大学への出向に伴う辞令交付式を開催。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年 7月 「異文化間相互理解と不寛容除去」特別セミナーを開催。〈法学部〉

2017年 7月 「うみの学校」で摂大生が協力。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年 8月 松塚区民まつりで大阪工業大学とコラボ 高齢者健康チェックを実施。〈薬学部・看護学部〉

2017年 8月～2018年 1月
サイエンスカフェin寝屋川(全5回)を開催。〈理工学部〉

2017年 8月 由良町実地体験学習を実施。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年 8月 災害時医療活動に関する多機関合同訓練を実施。〈理工学部〉

2017年 8月～ 9月
学生のアイデアによる企画を梅田ロフトの売り場で実現。〈教務課〉

2017年 8月 災害を想定した八幡警察署の機能移転訓練を実施。〈枚方事務室〉

2017年 9月 ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)研修会を実施。〈教務課〉

2017年 9月 学生が「産学連携ツーリズムセミナー」で観光ファイナンスをテーマに発表し、最優秀賞を受賞。〈経済学部〉

2017年 9月 All 摂南大学 Dayを開催。〈企画課〉

2017年 9月 摂南大学公式ホームページをリニューアル。〈企画課〉

2017年 9月 ATR CALL BRIX(英語学習支援システム)講習会を実施。〈情報メディアセンター〉

2017年10月 「国連UNHCR難民映画祭一学校パートナーズ参加イベント」を実施。〈法学部〉

2017年10月 吉田沙保里氏を招いて特別講演会「夢を追いかけてー見なきゃ掴めない夢があるー」を開催。〈企画課〉

2017年10月 第13回英語教育フォーラムを開催。〈外国語学部〉

2017年10月 摂南大学融合科学研究所研究講演会を開催。〈理工学部〉

2017年10月～12月
「大人のフィールドワーク」を開講。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年10月 若者のイベント「新天地inNEYAGAWA」で本学学生が委員長として活躍。〈国際交流センター〉

2017年10月 秋の薬草見学会を開催。〈薬学部・研究支援・社会連携センター〉

2017年10月 スポーツ振興センター教員が「柔道の形」で6度目の世界一を達成。〈学生課〉

2017年10月 紀の国大学シンポジウムを開催。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年11月 アクティブ・ラーニングセミナー「シアターラーニング研修会」を開催。〈教務課〉

2017年11月 由良町の高齢者約200人を体力測定。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年11月 「ビジネス・エンカレッジ・フェア2017」に出展。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年11月 「すさみ町枯木灘サイクリングフェア-RIDE ON SUSAMI2017-」に学生が協力。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年11月 税に関する講演会を開催。〈法学部〉

2017年11月 寝屋川消防署と合同防災訓練を実施。〈庶務課〉

2017年11月 経済学部の学生が「第13回日銀ブランド」決勝大会で最優秀賞を受賞。〈経済学部〉

2017年12月 防災まちづくりワークショップを実施。〈理工学部〉

2017年12月 「日本語スピーチコンテスト」を開催。〈国際交流センター〉

2017年12月 2017年度摂南大学国際教養セミナーを開催。〈外国語学部〉

2018年 1月 経営学部「Entrepreneurship」特別講演会を開催。〈経営学部〉

2018年 1月 環境教育に関する講演会を開催。〈法学部〉

2018年 1月 「2017年度第41回体育会総会」を開催。〈学生課〉

2018年 1月 関西国際空港での由良町観光PRで摂南大学PBLチームが協働。〈教務課〉

2018年 2月～ 4月
「浪花の大ひな祭りー上方の雛御殿と雛道具ー」を開催。〈外国語学部〉

2018年 2月 「副首都・大阪」連携プロジェクトで摂大生が成果発表。〈教務課〉

2018年 2月 摂南大学PBLチームが由良町長を表敬訪問し、今年度の活動を報告。〈教務課・研究支援・社会連携センター〉

2018年 2月 「FC TIAMO枚方×摂南大学 Sports Festival 2018」を開催。〈研究支援・社会連携センター・学生課〉

2018年 2月 2017年度 摂南大学研究助成「Smart and Human研究助成金」成果発表会を開催。〈研究支援・社会連携センター〉

2018年 2月 第1回全学教養教育に関するワークショップを開催。〈教務課〉

2018年 2月 2017年度理工学部FDフォーラムを開催。〈理工学部〉

2018年 2月 吹奏楽部・ラグビー部員らがボランティアに参加。陸上競技部員らランナー参加し、「寝屋川ハーフマラソン2018」を盛り上げる。〈学生課〉

2018年 3月 和歌山県由良町の「道の駅EXPO」出店に学生が協力。〈研究支援・社会連携センター〉

2018年 3月 寝屋川ラグビーフェスティバルを開催。〈学生課〉

2018年 3月 「人工知能・IoT・ビッグデータ分野における産学連携マッチングフェアに」出展。〈研究支援・社会連携センター〉

■ 広島国際大学

2017年 4月 広国DAY「IPE・就業力育成プログラム共同開催講演会」を開催。〈総合教育センター〉

2017年 4月～2018年 3月
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)への参画。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年 4月～12月
呉キャンパス3・4号館解体等工事を実施。〈営繕課〉

2017年 6月～ 9月
呉キャンパス薬草園移設工事を実施。〈営繕課〉

- 2017年 6月～2018年 2月
呉地域オープンカレッジネットワーク会議「学生の夢実現プロジェクト」助成事業採択。〈薬学部〉
- 2017年 6月～2018年 3月
東広島市版「大学連携型CCRC」基本計画の策定。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 7月 呉地域オープンカレッジネットワーク会議「公開講座」助成事業採択。〈保健医療学部〉
- 2017年 7月～ 8月
「子ども向け(職業、ものづくり・科学)体験講座」を開催。〈保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、心理学部、看護学部、薬学部、医療栄養学部〉
- 2017年 7月～11月
私立大学等改革総合支援事業タイプ1「教育の質的転換」に選定。〈会計課〉
- 2017年 7月～11月
「第5回ここからの手紙コンテスト」を開催。〈入試センター〉
- 2017年 7月～2018年 3月
瀬戸内イキイキプロジェクトメンバーが瀬戸内の島で暮らす人々の「生きがい支援」と「地域活性化」を目的とした活動を実施。〈看護学部、医療栄養学部〉
- 2017年 8月 第3回学長杯争奪3キャンパス交流「広島国際大学ソフトボール大会」を開催。〈医療経営学部事務室〉
- 2017年 8月 医療・福祉・介護の人材育成を推進することを目的とし、広島県立熊野高等学校連携協定を締結。〈入試センター〉
- 2017年 8月～2017年 9月
「イノベーション・ジャパン2017～大学見本市&ビジネスマッチング～」に出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 8月～10月、12月
広島国際大学アジア介護・福祉教育研修センターにて日本の介護・福祉現場での指導者養成研修プログラム、指導者のための介護技術講習会プログラムを実施。〈医療福祉学部〉
- 2017年 8月～11月
東広島キャンパステニスコート付近駐車場設置等工事を実施。〈営繕課〉
- 2017年 8月～11月
呉キャンパス体育館 雨漏り補修工事を実施。〈営繕課〉
- 2017年 8月～2018年 2月
ひろしま地域食材PR促進事業を実施。〈医療栄養学部〉
- 2017年 9月 広島国際大学アジア介護・福祉教育研修センターにて短期研修プログラム(日本式介護)を実施。〈医療福祉学部〉
- 2017年 9月、10月
「2017健康サポートフェア」へブース出展およびボランティア協力学生を派遣。〈薬学部〉
- 2017年 9月～12月
株式会社イズミとお弁当(カラダ想い御膳)商品開発事業を実施。〈医療栄養学部〉
- 2017年 9月～2018年 2月
呉キャンパス体育館床張替およびライン設置工事を実施。〈営繕課〉
- 2017年10月 広島国際大学言語聴覚健康センター開設。〈総合リハビリテーション学部〉
- 2017年10月 広国DAY「IPE講演会」を開催。〈総合教育センター〉
- 2017年11月 卒後教育研修会を開催。〈総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、医療経営学部、心理学部、薬学部〉
- 2017年11月 「こども未来フェスタin黒瀬」へのブース出展およびボランティア協力学生を派遣。〈総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、心理学部〉
- 2017年11月 理学療法専攻および言語聴覚療法専攻において、リハビリテーション教育評価機構平成29年度認定審査を受審。〈リハビリテーション学科〉
- 2017年11月 東広島市および広島県立黒瀬高等学校と「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結。〈医療福祉学部、入試センター〉
- 2017年11月 「第3回東広島市福祉講演会」を開催。〈入試センター〉
- 2018年 2月 2017年度臨床心理士合格者実績100%達成。〈心理科学研究科実践臨床心理学専攻〉
- 2018年 2月 第4回学長杯争奪3キャンパス交流「広島国際大学ソフトバレーボール大会」を開催。〈医療経営学部事務室〉
- 2018年 3月 遠隔講義システムを有したアクティブラーニング教室の改修完了と使用方法にかかる説明会を開催。〈総合教育センター〉

■ 常翔学園中学校・高等学校

- 2017年 4月 〔高校〕吹奏楽部が、啓光吹奏楽部と合同で常翔ホールにてウィンドコンサートを実施。
- 2017年 4月 〔高校〕新入生オリエンテーション合宿を実施。
- 2017年 4月 〔中学〕新入生オリエンテーション合宿を実施。
- 2017年 4月 〔中学・高校〕新入生から、タブレットを用いたICT教育がスタート。
- 2017年 4月 〔中学〕3年生が、全国学力・学習状況調査に参加。
- 2017年 5月 〔高校〕部活動リーダー講習会を実施。
- 2017年 5月 〔中学・高校〕部活動生徒対象集会を実施。
- 2017年 5月 〔中学〕大阪私立中学校フェアに参加。
- 2017年 5月 〔高校〕文理進学コース2年生を対象に、ヤングアメリカンズアウトリーチ(創作ミュージカル)を実施。
- 2017年 5月 〔中学・高校〕校外学習(遠足)を実施。
- 2017年 5月 〔高校〕薬学・医療系進学コース2年生を対象に、広島国際大学体験学習を実施。
- 2017年 5月 〔中学・高校〕後援会総会を常翔ホールにて実施。

2017年 6月 〔中学・高校〕公開授業(授業参観)およびクラス懇談会を実施。
 2017年 7月 〔中学〕全学年で芸能鑑賞を実施。
 2017年 6月 〔中学・高校〕保護者を対象に、広島国際大学研修旅行を実施。
 2017年 6月 〔中学・高校〕京セラドーム大阪で、体育祭を実施。
 2017年 7月 〔中学〕修学旅行を実施(沖縄方面)。
 2017年 7月 〔高校〕中高大連携プログラムの一環として、1年生保護者を対象に、学園内大学説明会を実施。
 2017年 7月 〔中学・高校〕学習塾を対象に、2018年度入試説明会を常翔ホールにて実施。
 2017年 7月 〔高校〕2年生を対象に、世界経済フォーラムに関係する組織の方々によるキャリア講演会を実施。
 2017年 7月 〔中学〕イングリッシュキャンプを実施。
 2017年 7月 〔高校〕オーストラリア語学研修を実施。
 2017年 7月 〔高校〕フィリピン・セブ島英語研修を実施。
 2017年 7月 〔中学〕オープンスクールを実施。
 2017年 7月 〔高校〕吹奏楽部が、大阪府吹奏楽部コンクール北地区大会で金賞を受賞。
 2017年 8月 〔高校〕水泳部・柔道部・ウェイトリフティング部が、それぞれ平成29年度全国高等学校総合体育大会に出場。
 2017年 8月 〔高校〕科学部員・顧問が、今市商店街主催夏祭りにブースを出展。
 2017年 8月 〔高校〕本校にて行われた、中高大連携教育強化ワークショップに本校教員が参加。
 2017年 8月 〔中学〕工大の工作・実験フェア2017に参加。
 2017年 8月 〔中学・高校〕大阪私立学校展に参加。
 2017年 8月 〔高校〕オープンスクールを実施。
 2017年 9月 〔中学・高校〕大阪880万人訓練に参加。
 2017年 9月 〔中学・高校〕文化祭を実施。
 2017年 9月 〔中学・高校〕後援会懇話会を実施。
 2017年 9月 〔高校〕2年生が、Osaka City Project発表会を実施。
 2017年 9月 〔中学〕3年生が、キャリア学習発表会を実施。
 2017年10月 〔中学・高校〕後援会研修旅行を実施(奈良・京都方面)。
 2017年10月 〔高校〕2年生を対象に、海外修学旅行を実施(オーストラリア方面)。
 2017年10月 〔中学〕3年生を対象に、英語スピーチコンテストを実施。
 2017年10月 〔高校〕有志生徒が、科学の甲子園大阪大会に参加し、5位に入賞。
 2017年11月 〔中学・高校〕緊急地震速報訓練を実施。
 2017年11月 〔中学・高校〕防災訓練を実施。
 2017年11月 〔中学・高校〕ICT公開授業を実施。
 2017年11月 〔高校〕一貫コース1年生が、工大梅田キャンパスでR&D学部の体験授業に参加。
 2017年12月 〔中学・高校〕GTECを受験(中学1年生を除く)。
 2017年12月 〔高校〕卒業5年目・10年目合同同窓会・常翔好友クラブ交流パーティを実施。
 2017年12月 〔中学・高校〕国税庁が募集した「税に関する作文」・「税についての作文」に、本校生計4名が各種表彰を受賞。
 2017年12月 〔高校〕旭区主催「若気の至り祭」に、ボランティアサークルの生徒が参加。
 2017年12月 〔中学・高校〕吹奏楽部とダンス部が、啓光中高と合同で常翔ホールにて「Josho X'mas Concert」に参加。
 2017年12月 〔高校〕ラグビー部が、第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場。
 2018年 1月 〔高校〕1年生を対象に、企業探究学習発表会を実施。
 2018年 1月 〔高校〕1年生・2年生を対象に、キャリアセミナーを実施。
 2018年 1月 〔中学・高校〕オーストラリア・シドニーからカシミア校の生徒が来校。
 2018年 1月 〔中学・高校〕大阪私学振興大会に参加。
 2018年 2月 〔高校〕薬学・医療系進学コース2年生が、ガリレオプラン発表会を実施。
 2018年 2月 〔中学〕1年生・2年生を対象に、スキー実習を実施。
 2018年 2月 〔中学〕常翔啓光学園中学校と百人一首交流会を実施。
 2018年 2月 〔中学・高校〕マラソン大会を実施。
 2018年 2月 〔高校〕2年生が、国際協力機構主催のエッセイコンテストで表彰される。
 2018年 2月 〔中学・高校〕クエストカップ2018全国大会に12年連続で出場。
 2018年 3月 〔高校〕大阪万博誘致活動の一環として、吹奏楽部が千林商店街でのパレードを実施。
 2018年 3月 〔高校〕京都大学に3名の合格者を輩出(過年度生1名含む、過去最高)。
 2018年 3月 〔高校〕文理進学コースから初の大阪大学現役合格者を輩出。
 2018年 3月 〔高校〕国公立大学に延57名の合格者を輩出(過年度生3名、文部科学省所管外11名およびⅡ部1名含む)。
 2018年 3月 〔高校〕アーチェリー部が第36回全国高等学校アーチェリー選抜大会に出場。
 2018年 3月 〔中学・高校〕淀川国際ハーフマラソンに本校生徒がボランティアとして多数参加。

常翔啓光学園中学校・高等学校

2017年 4月 〔中学〕3年生全員が、オリエンテーション合宿を実施。
 2017年 4月 〔高校〕1年生がアドバンスキャンプを実施。
 2017年 5月 〔中学・高校〕「常翔啓光クライミングウォール」オープニング式典を実施。
 2017年 5月 〔中学〕1年生対象に歯科講習、2年生対象に思春期教室、3年生対象にAED講習を実施。
 2017年 5月 〔高校〕中高大連携プログラムの一環として、1年生保護者を対象に学園内大学説明会を実施。
 2017年 5月 〔高校〕摂南大学の協力を得て、第1回サイエンスラボを実施。
 2017年 5月 〔高校〕3年生を対象に、人権映画鑑賞会を実施。

- 2017年 5月 〔中学・高校〕 近隣の小学生を対象として、サイエンス部主催の親子サイエンス教室を実施。
- 2017年 6月 〔中学〕 全学年で宿泊行事を実施。1年生大山登山、2年生阿南海洋訓練、3年生四万十川修学旅行。
- 2017年 6月 〔高校〕 体育祭を実施。
- 2017年 6月 〔中学・高校〕 後援会総会を実施。
- 2017年 6月 〔中学・高校〕 芸術鑑賞会を実施。四季劇場で、劇団四季演劇鑑賞。
- 2017年 6月 〔中学〕 摂南大学の協力を得て、薬物乱用防止教室を実施。
- 2017年 6月 〔高校〕 3年生保護者を対象に、学園内大学ガイダンスを実施。
- 2017年 6月 〔高校〕 3年生女子生徒が、体育授業の成果発表として、ダンス発表会を実施。
- 2017年 7月 〔中学・高校〕 6学年全てで、GTECを受験。
- 2017年 7月 〔中学〕 1・2年生対象に、情操教育(茶道・華道)を実施。
- 2017年 7月 〔高校〕 1年生対象に、大阪工業大学・摂南大学の協力を得て、高大連携模擬授業を実施。
- 2017年 7月 〔中学〕 1年生対象に、iPresence合同会社、大阪工業大学ロボティクス&デザインセンターとのコラボレーションにより、OIT梅田キャンパスでイノベーション教育を実施。
- 2017年 7月 〔中学・高校〕 ワンダーフォーゲル部の協力で、親子体験クライミング教室を実施。
- 2017年 8月 〔高校〕 3年生が、K¹スタディキャンプ(勉強合宿)を実施。
- 2017年 8月 〔高校〕 JT生命誌研究館の協力を得て、分子生物学的な観点からみた進化の研究を実施。
- 2017年 8月 〔高校〕 ワンダーフォーゲル部が、平成29年度全国高等学校総合体育大会登山の部に、5年連続で出場。
- 2017年 8月 〔中学〕 3年生が、第57回全国中学校水泳競技大会の部に出場。
- 2017年 8月 〔中学・高校〕 「ミュージギャラリー」オープニング式典を実施。
- 2017年 9月 〔中学・高校〕 啓光祭(文化祭)を実施。
- 2017年 9月 〔高校〕 1年生が、K¹スタディキャンプ(勉強合宿)を実施。
- 2017年 9月 〔高校〕 2年生が、修学旅行を実施。海外はハワイとオーストラリア、国内は北海道と八重山諸島の4コース選択制。
- 2017年 9月 〔中学〕 体育祭を実施。
- 2017年10月 〔中学〕 全学年対象に、大阪工業大学・摂南大学の協力を得て、K¹クエストを実施。学年ごとに特別プログラムを組んで実施。
- 2017年10月 〔中学〕 全学年対象に、人権映画鑑賞会を実施。
- 2017年10月 〔中学・高校〕 60周年記念フェスティバルを実施。
- 2017年10月 〔中学・高校〕 後援会主催で、60周年記念後援会事業をUSJで実施。
- 2017年11月 〔高校〕 1年生対象に、摂南大学の留学生と異文化交流会を実施。
- 2017年11月 〔中学・高校〕 防災訓練を実施。
- 2017年12月 〔中学〕 1・2年生対象に、情操教育(茶道・華道)を実施。
- 2017年12月 〔高校〕 1・2年生が、人権映画鑑賞会を実施。
- 2017年12月 〔中学・高校〕 GTECを受験(中学1年生と高校3年生を除く)。
- 2017年12月 〔中学〕 摂南大学ボランティア部の協力を得て、3年生を対象にHIVピアエデュケーションを実施。
- 2017年12月 〔高校〕 1年生対象に、摂南大学の協力を得て、思春期教室を実施。
- 2017年12月 〔中学・高校〕 吹奏楽部とダンス部が、常翔学園中高吹奏楽部、ダンス部と合同で、クリスマスコンサートをOIT梅田タワーで開催。
- 2017年12月 〔高校〕 ワンダーフォーゲル部員2名(男子1名、女子1名)が、全国選抜クライミング大会に出場。
- 2018年 1月 〔中学・高校〕 マラソン大会を実施(高校3年生を除く)。
- 2018年 1月 〔中学〕 第7回百人一首交流会を、常翔学園中学校で実施。
- 2018年 2月 〔中学〕 英語暗唱大会を実施。
- 2018年 2月 〔中学・高校〕 2年生を対象に、交通安全講習会を実施。
- 2018年 2月 〔高校〕 1年生が、3分間スピーチコンテストを実施。
- 2018年 2月 〔中学〕 コミュニケーション発表会を実施。合わせて法政大学で開催された「クエストカップ2018全国大会」(主催:教育と探求社)に、本校代表生徒が参加。
- 2018年 2月 〔高校〕 体育系クラブ員代表を対象に、一次救命処置講習会を実施。
- 2018年 3月 〔高校〕 淀川国際ハーフマラソンに、本校生徒がボランティアとして多数参加。

■ 法人本部

◇ 内部監査室

- 2017年 5月～ 6月
常翔啓光学園中学校・高等学校業務監査を実施。[対象:常翔啓光学園中学校・高等学校事務室]
- 2017年 5月～ 7月
競争的資金(科学研究費助成事業等)の執行状況監査を実施。[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]
- 2017年 9月～11月
課外活動費の管理状況等について業務監査を実施。[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]
- 2017年12月～2018年 2月
外部資金の執行状況について会計監査を実施。[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]

◇ 法人室

- 2017年10月 大阪工業大学、摂南大学および広島国際大学学長の改選。
- 2018年 2月 常翔学園中学校・高等学校および常翔啓光学園中学校・高等学校長の改選。

◇ 経営企画室

- 2017年 7月 学園の第Ⅲ中長期目標・計画(2018～2022年度)を策定。
- 2018年 1月 「J-Vision 22」の浸透を目的として「2018年度理事長指針・学校長方針」冊子を作成し、教職員に配付。
- 2018年 1月～2018年 3月
学園の第Ⅱ期中期目標・計画(2013～2017年度)の達成度に対する全体評価を実施。
- 2018年 3月 「J-Vision 22」の浸透状況等についてアンケート調査を実施。

◇ 危機管理室

- 2017年 4月 災害時行動マニュアルの作製、配付。〈危機管理課〉
- 2017年 4月～2018年 2月
学園各校地消防計画書(防火・防災)、自衛保安(消防)組織の作成、届出。〈危機管理課〉
- 2017年 4月～2018年 3月
学園各校地・キャンパスの防火・防災訓練、反省会の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 8月 第1回一斉連絡・安否確認システム応答訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 8月 危機管理対策本部立ち上げ運営訓練実施。〈危機管理課〉
- 2017年 9月 中宮・大宮地域防災会議避難所運営訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 9月 第1回備蓄品(機材を含む)点検の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 9月 第1回自主点検の実施。〈危機管理課〉
- 2017年11月 緊急地震速報システムを利用したシェイクアウト訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年11月 第2回一斉連絡・安否確認システム運用訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年12月～2018年 2月
「学園の危機管理WG」の実施。(2回実施)〈危機管理課〉
- 2017年12月 広国大教職員対象法務研修会の実施。〈渉外課〉
- 2018年 1月 中宮・大宮地域防災会議の開催。〈危機管理課〉
- 2018年 2月 防火・防災管理者会議の開催。〈危機管理課〉
- 2018年 2月 大阪地区窓口対応教職員対象法務研修会の実施。〈渉外課〉
- 2018年 2月 第2回自主点検の実施。〈危機管理課〉
- 2018年 3月 第2回備蓄品(機材を含む)点検の実施。〈危機管理課〉

◇ 広報室

- 2017年 4月 大阪工業大学新学部開設告知にかかる交通広告掲出と新聞広告掲載。
- 2017年 5月 梅田エリアで開催のイベント「チャリウッド2017」に協賛。(大阪工業大学)
- 2017年 5月 「常翔啓光クライミングウォール」のメディア向け説明会を主催。(常翔啓光学園中学校・高校)
- 2017年 5月 「第47回神戸まつり」に協賛。(大阪工業大学、摂南大学)
- 2017年 5月・8月・11月、2018年 1月・3月
学園広報誌FLOW74～78号発行。
- 2017年 7月 「クンクンボディ」開発についてメディア向け説明会を主催。(大阪工業大学)
- 2017年 7月 第71回水都祭「天神祭奉納花火」に協賛。
- 2017年 7月 梅田エリアで開催のイベント「梅田ゆかた祭2017」に協賛。(大阪工業大学)
- 2017年 8月 一般社団法人BALLET OFFICE JAPAN主催の「アーティスティック・バレエ・ガラ」に公演協賛。
- 2017年 8月 「常翔学園プレゼンツ アーティスティック・バレエ講習会」に冠協賛。
- 2017年 9月・11月・12月、2018年 2月
学内者対象「広報実務セミナー(第1回～3回)」「勉強会(第1回・2回)」を主催。
- 2017年10月 学園案内2017発行。
- 2017年12月 梅田エリアで開催のイベント「スノーマンフェスティバル2017」への協賛。(大阪工業大学)
- 2017年12月 「大阪モーターショー第10回開催記念」に協賛。(大阪工業大学)
- 2018年 2月 「寝屋川ハーフマラソン2018」に協賛。(摂南大学)
- 2018年 3月 「第8回淀川国際ハーフマラソン」に協賛。

【プレスリリースの配信件数】

大阪工業大学23本、摂南大学40本、広島国際大学20本、常翔啓光学園中学校・高等学校2本、学園1本

◇ 総務部

- 2017年 4月 業務改革にかかる理事長表彰式を実施。〈職員研修課〉
- 2017年 4月～2018年 1月
事務職員階層別研修を実施。〈職員研修課〉
- 2017年 4月～2018年 3月
学外公益団体(日本高等教育評価機構)へ若手職員を研修派遣。〈職員研修課〉
- 2017年 8月～9月
私学マネジメント講演会を実施。〈職員研修課〉
- 2017年 8月～9月
事務職員夏期集合研修を実施。〈職員研修課〉
- 2018年 2月 将来計画タスクフォース「JOSHOU NEXT CABINET」を発足。〈職員研修課〉

◇ 施設部

- 2016年 9月～2017年12月
呉キャンパス3・4号館解体にかかる工事監理。＜施設課＞
- 2016年10月～2017年 4月
常翔啓光学園 中学校・高等学校クライミングウォール設置にかかる工事監理。＜施設課＞
- 2016年11月～2017年 7月
常翔啓光学園 中学校・高等学校音楽棟新築にかかる工事監理。＜施設課＞
- 2017年 4月～2017年12月
寝屋川キャンパス摂大交流会館等解体にかかる設計および工事監理。＜施設課＞
- 2017年 4月～2018年 1月
呉キャンパス教育会館(仮称)、クラブハウス新築等にかかる設計および耐震改築補助金を申請。＜施設課＞
- 2017年 4月～2018年 2月
大宮キャンパス再整備のため、1・2・6・7・9・10号館、東学舎1・2号館他を改修にかかる設計および工事監理。
＜施設課＞
- 2017年 4月～2018年 2月
大宮キャンパス再整備のため、3・4号館新築および4号館解体にかかる設計。＜施設課＞
- 2017年 6月～2018年 3月
学生等への福利厚生環境維持・向上のため、食堂厨房機器(大宮、梅田、寝屋川、枚方第1～3、東広島、呉)を更新。＜用度課＞
- 2017年 7月 低利用で今後の教育・研究に活用が見込めない土地である枚方第1校地の一部を処分。＜施設課＞
- 2017年 7月～2018年 2月
学生等への福利厚生環境維持・向上のため、国際会館空調機20台(野江校地)を更新。＜用度課＞
- 2017年10月～2018年 3月
摂南大学枚方キャンパス農学部棟(仮称)新築にかかる設計。＜施設課＞
- 2017年12月～2018年 3月
台風21号により冠水した大宮キャンパス淀川河川敷グラウンド復旧事業を実施。
風水害等の災復旧を優先的に行った学校に対し経常費支援する大阪府私立高等学校経常費補助金特別事情配分を申請。＜施設課＞
- 2018年 1月 摂南大学の教育研究施設用地として寝屋川校地隣接地を取得。＜施設課＞
- 2018年 2月 大阪工業大学の運動場用地、および常翔学園中学校・高等学校の校舎敷地として大宮校地隣接地を取得。
＜施設課＞
- 2018年 3月 大宮キャンパス再整備のため、厨房を増設(6号館3階)。＜施設課＞

◇社会連携機構

〈研究推進担当〉

1. 特許等管理状況

(2018年3月31日現在)

発明関係	総数	内訳		
		単独	共同	
2017年度発明届出件数	10	4	6	
2017年度日本国内出願件数(分割出願等を含む)	11	3	8	
国内特許権取得件数(累計)	47	18	29	
外国出願件数(累計)	65	16	49	
実施、利用許諾関係	特許 ※出願中を含む	著作権	商標	ノウハウ
実施許諾(オプショナル含む)(累計)	6	1	1	3

2. 知的財産、産学連携に関する啓発・支援

研究者に対する支援

知的財産セミナーの開催

2017年 6月 大阪工業大学(大宮校地)(梅田校地)(枚方第2校地)

2017年 7月 摂南大学(寝屋川校地)(枚方第1校地)

2017年 7月 広島国際大学(東広島校地)(呉・広島校地はテレビ会議システムにより同時中継)

3. 外部組織との連携

① 科学技術振興機構を活用した連携促進(随時)

・新技術開発あっせんによる技術移転と産学連携

・JST外国特許出願支援制度の利用

・特許主任調査員による発明内容の評価

・JST科学技術コモンズへの特許情報の提供とJ-STOREへの掲載

② 知的財産戦略ネットワーク株式会社を活用した技術(創薬系)移転活動(随時)

③ 学外との連携会議

・近畿経済産業局:産学官連携実務者会議への参加(2017年11月、2018年3月)

〈社会学連携担当〉

2017年 4月～ 5月

「茶屋町デザインVillage」に空間デザイン学科が参加。
2017年 5月 「チャリウッド2017」に学生・教員が参加。
2017年 6月 「茶屋町スロウデイ2017 1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」に学生・教員が参加。
2017年 9月 大阪音楽大学連携企画「ビッグバンドライブ」開催。
2017年10月～2018年 3月
大阪音楽大学連携企画「ロビーコンサート」毎月第2土曜日開催。
2017年11月～12月
「梅田スノーマンフェスティバル2017」に学生・教員が参加。

〈産学連携担当〉

2017年 7月 第1回大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会開催。
2017年 9月 第2回大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会開催。
2017年10月 大阪府IoT推進Labでの講演。
2018年 1月 MOBIOカフェでの講演。
2018年 3月 第3回大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会開催。

〈事業担当〉

2017年10月 サンフランシスコケーブルカー移設記念式典挙行。
2017年10月～11月
常翔歴史館第3回企画展開催。
2017年11月 常翔ホール椅子募金終了。

◇ 連携教育推進機構

2017年 4月 第1回中高大連携教育推進委員会を開催。
2017年 5月 常翔啓光学園高等学校保護者対象説明会「大学での学びについて～学園設置大学が提供している教育・研究メニュー～」を開催。
2017年 6月～11月
常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園高等学校にて中高大連携プログラムを実施。
2017年 7月 第2回中高大連携教育推進委員会を開催。
2017年 7月 常翔学園高等学校保護者対象説明会「大学での学びについて～学園設置大学が提供している教育・研究メニュー～」を開催。
2017年 8月 第1回高大連携教育強化ワークショップ「これからの学園の連携教育のあり方を考えるー高大連携プログラムから接続プログラムへ、さらには一貫プログラムに向けて」を開催。
2017年10月 第1回中高大連携教育推進委員会教務分科会を開催。
2018年 2月 第3回中高大連携教育推進委員会を開催。
2018年 2月 第2回高大連携教育強化ワークショップ「高大接続教育プロジェクトのアクションプラン実現に向けて」を開催。

◇ ICT連携機構

2017年10月 広国大事務系仮想基盤システムの更新。
2017年10月 専任の全教職員を対象とした情報セキュリティeラーニング研修の実施。
2018年 3月 学園事務システムの更新と一部システムのクラウド化。
2018年 3月 学園設置3大学のペーパーレス会議システムの更新。
2018年 3月 常翔歴史館デジタルアーカイブシステムの導入。